

重度・重複障害児の アセスメントチェックリスト

—認知・コミュニケーションを中心に—

ver.9.0

令和4年3月発行

はじめに

近年、肢体不自由特別支援学校においては児童生徒の障害の重度・重複化が進んでおり、本校にも多くの重度・重複障害児が在籍しています。重度・重複障害児の実態把握においては観察・聞き取り・各種検査が中心となりますが、各種検査の多くは本校の児童生徒には活用しにくいという状況がありました。そこで、重度・重複障害児の実態に合わせた、より細やかなチェックリストの必要性を感じ、教育研究部(平成 26 年度以前は自立活動部)が中心となって本リストを作成しました。平成 26 年 3 月に ver. 1.0 を発行し、年々版を重ね、今年度 ver. 8.0 を発行しました。

また、平成 29 年 4 月に告示された特別支援学校学習指導要領の第 1 章第 3 節の「3 教育課程の編成における共通事項」の「(1) 内容等の取扱い」において、各教科の内容に関する事項は、特に示す場合を除き、いずれの学校においても取り扱わなければならないと示され、特別支援学校教育指導要領・学習指導要領解説自立活動編第 3 章 1 の「(1) 自立活動とは」において、「自立活動の指導が各教科において育まれる資質・能力を支える役割を担っている」と示されるようになりました。自立活動の目標・学習内容と各教科の目標・学習内容のつながりを教員一人一人が意識しながら指導することが求められています。そのことから、昨年度発行した ver. 7.0 では、本リストの項目が学習指導要領の知的小学部 1 段階の国語・算数の内容とどのようにつながるのかを分析し、その結果を示す欄を設けました。また、本年度の研究で学習指導要領の知的小学部 1 段階の国語・算数の内容について、本リストの項目がどの程度網羅しているかを研究し、ほぼ網羅していることが明らかとなりました。本リストは重度・重複障害児の実態把握のために作成しており、児童生徒に必要な学習内容の手掛かりを得るためにも活用ができます。

ver. 9.0 では、今年度の授業改善の取組や本リストを活用する中で得られた声から、キーワードと各項目の関連という列を新たに追加しました。そして、他の成果物を改訂する際の検討により、既存項目の精選、修正を行いました。

本リストはまだ完成されたものではなく、多くの課題を残しています。今後も引き続き充実した研究や実践を通して、より有用なリストとなるように取組を進めていく所存です。皆様からの忌憚のない御意見や御指導を賜りますようお願いいたします。

令和 4 年 3 月

広島県立福山特別支援学校
校 長 田 中 弘 枝

目 次

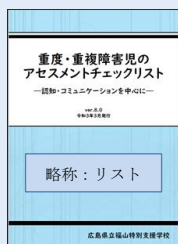
第1章	重度・重複障害児のアセスメントチェックリストの概要	1
	1 アセスメントチェックリスト活用の概要図	
	2 目的	
	3 内容	
	4 活用のポイント	
	5 リストの作成過程	
	6 活用の展望	
	7 引用・参考文献	
第2章	重度・重複障害児のアセスメントチェックリスト 及び課題整理シートの使い方	10
	1 活用の手順	
	2 本リストの使い方・記入例	
	3 課題整理シートの使い方・記入例	
	4 語句について	
第3章	重度・重複障害児のアセスメントチェックリスト	13
	◆アセスメントチェックリスト	
	◆課題整理シート	
	◆プロフィール表	
	◆キーワード関連図	
資料	1 段階・領域ごとの発達の概要（Ⅰ～Ⅳ段階）	
	2 キーワードの定義（Ⅰ～Ⅳ段階）	

第1章

重度・重複障害児のアセスメントチェックリストの概要

1 アセスメントチェックリスト活用の概要図

A 実態把握（リストを用いて、的確にアセスメントする。）



V ②大人の注意を引く ③要求手段の多様化 ④指さし要求			
V 52	選択を聞く場面で好きな物を決まて選ぶ。	+++++	38 Bア Cイ
V 53	支援者が指している方向に視線を向ける。	+++++	39 Cア
V 54	支援者が指した物を見て、確かめるように支援者の顔を見る。	+++++	
V 55	支援者と一緒に欲しい物に指さしをする。	+++++	

リストに○をつける。
→「時々できる」「おおそでできる」
の項目が課題として見出せる。

この子供はⅠ段階の実態で、Ⅱ段階の項目が課題となるよ！
「音への快反応」に課題が見られるぞ。



Ⅶ段階（24ヶ月）まで対応

◆コミュニケーションに関するプロフィール表

月齢	段階	要求表出	人間関係	聴覚・言語	認知	視覚等
0	I	不明確な表出	人の働き掛けによる快反応	聴覚刺激への気付き	触覚・固有覚・前庭感覚刺激への気付き	視覚刺激への気付き
2	II	明確な表出 大人への注意	声への快反応 大人への注意	音への快反応 音の変化への気付き 音の方向性への気付き 聴覚刺激への注意の高まり	触覚の変化への気付き 手・物への気付き	注視 追視
3	III	期待に応える 声のやりとり 応答性のある行動 大人への積極性	特定の文脈への気付き 大人への積極性 感情の分化	声の変化への気付き 音の方向性への気付き 特定フレーズへの気付き 言葉への快反応	記憶 単純な操作 リーチング 単純な因果関係の理解	

プロフィール表で、子供の発達段階がわかる。

下線は課題、網掛けは実態

A 改善（評価を受けて、指導をより良く改善していく。）

あまり変化がないなあ。
指導方法や教材にもっと工夫が必要なのかな？
実態把握が間違っていたのかな？
前の項目の課題がまだ安定していないから、そちらに重点を置いて指導しようかな。

プロフィール表を見て、子供の横の発達を意識して他領域を指導してみようか。



C 評価（リストで再評価することで、指導の評価を行う。）

項目	記述欄	手引	国語	算数	その他の科目
I ①聴覚刺激への気付き					
1 決断の音にびっくりする。(Micro刺激)	+++++				①
2 決断の音にびっくりする。(Macro刺激)	+++++				①
3 決断の音にびっくりする。(Micro刺激)	+++++				①
4 決断の音にびっくりする。(Macro刺激)	+++++				①
5 決断の音にびっくりする。(Micro刺激)	+++++				①
6 決断の音にびっくりする。(Macro刺激)	+++++				①
7 決断の音にびっくりする。(Micro刺激)	+++++				①
8 決断の音にびっくりする。(Macro刺激)	+++++				①
9 決断の音にびっくりする。(Micro刺激)	+++++				①
10 決断の音にびっくりする。(Macro刺激)	+++++				①
11 決断の音にびっくりする。(Micro刺激)	+++++				①
12 決断の音にびっくりする。(Macro刺激)	+++++				①
13 決断の音にびっくりする。(Micro刺激)	+++++				①
14 決断の音にびっくりする。(Macro刺激)	+++++				①
15 決断の音にびっくりする。(Micro刺激)	+++++				①
16 決断の音にびっくりする。(Macro刺激)	+++++				①
17 決断の音にびっくりする。(Micro刺激)	+++++				①
18 決断の音にびっくりする。(Macro刺激)	+++++				①
19 決断の音にびっくりする。(Micro刺激)	+++++				①
20 決断の音にびっくりする。(Macro刺激)	+++++				①
21 決断の音にびっくりする。(Micro刺激)	+++++				①
22 決断の音にびっくりする。(Macro刺激)	+++++				①
23 決断の音にびっくりする。(Micro刺激)	+++++				①
24 決断の音にびっくりする。(Macro刺激)	+++++				①
25 決断の音にびっくりする。(Micro刺激)	+++++				①
26 決断の音にびっくりする。(Macro刺激)	+++++				①
27 決断の音にびっくりする。(Micro刺激)	+++++				①
28 決断の音にびっくりする。(Macro刺激)	+++++				①
29 決断の音にびっくりする。(Micro刺激)	+++++				①
30 決断の音にびっくりする。(Macro刺激)	+++++				①
31 決断の音にびっくりする。(Micro刺激)	+++++				①
32 決断の音にびっくりする。(Macro刺激)	+++++				①
33 決断の音にびっくりする。(Micro刺激)	+++++				①
34 決断の音にびっくりする。(Macro刺激)	+++++				①
35 決断の音にびっくりする。(Micro刺激)	+++++				①
36 決断の音にびっくりする。(Macro刺激)	+++++				①
37 決断の音にびっくりする。(Micro刺激)	+++++				①
38 決断の音にびっくりする。(Macro刺激)	+++++				①
39 決断の音にびっくりする。(Micro刺激)	+++++				①
40 決断の音にびっくりする。(Macro刺激)	+++++				①
41 決断の音にびっくりする。(Micro刺激)	+++++				①
42 決断の音にびっくりする。(Macro刺激)	+++++				①
43 決断の音にびっくりする。(Micro刺激)	+++++				①
44 決断の音にびっくりする。(Macro刺激)	+++++				①
45 決断の音にびっくりする。(Micro刺激)	+++++				①
46 決断の音にびっくりする。(Macro刺激)	+++++				①
47 決断の音にびっくりする。(Micro刺激)	+++++				①
48 決断の音にびっくりする。(Macro刺激)	+++++				①
49 決断の音にびっくりする。(Micro刺激)	+++++				①
50 決断の音にびっくりする。(Macro刺激)	+++++				①
51 決断の音にびっくりする。(Micro刺激)	+++++				①
52 決断の音にびっくりする。(Macro刺激)	+++++				①
53 決断の音にびっくりする。(Micro刺激)	+++++				①
54 決断の音にびっくりする。(Macro刺激)	+++++				①
55 決断の音にびっくりする。(Micro刺激)	+++++				①
56 決断の音にびっくりする。(Macro刺激)	+++++				①
57 決断の音にびっくりする。(Micro刺激)	+++++				①
58 決断の音にびっくりする。(Macro刺激)	+++++				①
59 決断の音にびっくりする。(Micro刺激)	+++++				①
60 決断の音にびっくりする。(Macro刺激)	+++++				①
61 決断の音にびっくりする。(Micro刺激)	+++++				①
62 決断の音にびっくりする。(Macro刺激)	+++++				①
63 決断の音にびっくりする。(Micro刺激)	+++++				①
64 決断の音にびっくりする。(Macro刺激)	+++++				①
65 決断の音にびっくりする。(Micro刺激)	+++++				①
66 決断の音にびっくりする。(Macro刺激)	+++++				①
67 決断の音にびっくりする。(Micro刺激)	+++++				①
68 決断の音にびっくりする。(Macro刺激)	+++++				①
69 決断の音にびっくりする。(Micro刺激)	+++++				①
70 決断の音にびっくりする。(Macro刺激)	+++++				①
71 決断の音にびっくりする。(Micro刺激)	+++++				①
72 決断の音にびっくりする。(Macro刺激)	+++++				①
73 決断の音にびっくりする。(Micro刺激)	+++++				①
74 決断の音にびっくりする。(Macro刺激)	+++++				①
75 決断の音にびっくりする。(Micro刺激)	+++++				①
76 決断の音にびっくりする。(Macro刺激)	+++++				①
77 決断の音にびっくりする。(Micro刺激)	+++++				①
78 決断の音にびっくりする。(Macro刺激)	+++++				①
79 決断の音にびっくりする。(Micro刺激)	+++++				①
80 決断の音にびっくりする。(Macro刺激)	+++++				①
81 決断の音にびっくりする。(Micro刺激)	+++++				①
82 決断の音にびっくりする。(Macro刺激)	+++++				①
83 決断の音にびっくりする。(Micro刺激)	+++++				①
84 決断の音にびっくりする。(Macro刺激)	+++++				①
85 決断の音にびっくりする。(Micro刺激)	+++++				①
86 決断の音にびっくりする。(Macro刺激)	+++++				①
87 決断の音にびっくりする。(Micro刺激)	+++++				①
88 決断の音にびっくりする。(Macro刺激)	+++++				①
89 決断の音にびっくりする。(Micro刺激)	+++++				①
90 決断の音にびっくりする。(Macro刺激)	+++++				①
91 決断の音にびっくりする。(Micro刺激)	+++++				①
92 決断の音にびっくりする。(Macro刺激)	+++++				①
93 決断の音にびっくりする。(Micro刺激)	+++++				①
94 決断の音にびっくりする。(Macro刺激)	+++++				①
95 決断の音にびっくりする。(Micro刺激)	+++++				①
96 決断の音にびっくりする。(Macro刺激)	+++++				①
97 決断の音にびっくりする。(Micro刺激)	+++++				①
98 決断の音にびっくりする。(Macro刺激)	+++++				①
99 決断の音にびっくりする。(Micro刺激)	+++++				①
100 決断の音にびっくりする。(Macro刺激)	+++++				①

「ときどきできる」「おおそでできる」になったぞ！
指導は効果的だったんだ！



「できる」を目指しつつ、次の課題の指導に進もう！

項目	記述欄	手引	国語	算数	その他の科目
I ①聴覚刺激への気付き					
1 決断の音にびっくりする。(Micro刺激)	+++++				①
2 決断の音にびっくりする。(Macro刺激)	+++++				①
3 決断の音にびっくりする。(Micro刺激)	+++++				①
4 決断の音にびっくりする。(Macro刺激)	+++++				①
5 決断の音にびっくりする。(Micro刺激)	+++++				①
6 決断の音にびっくりする。(Macro刺激)	+++++				①
7 決断の音にびっくりする。(Micro刺激)	+++++				①
8 決断の音にびっくりする。(Macro刺激)	+++++				①
9 決断の音にびっくりする。(Micro刺激)	+++++				①
10 決断の音にびっくりする。(Macro刺激)	+++++				①
11 決断の音にびっくりする。(Micro刺激)	+++++				①
12 決断の音にびっくりする。(Macro刺激)	+++++				①
13 決断の音にびっくりする。(Micro刺激)	+++++				①
14 決断の音にびっくりする。(Macro刺激)	+++++				①
15 決断の音にびっくりする。(Micro刺激)	+++++				①
16 決断の音にびっくりする。(Macro刺激)	+++++				①
17 決断の音にびっくりする。(Micro刺激)	+++++				①
18 決断の音にびっくりする。(Macro刺激)	+++++				①
19 決断の音にびっくりする。(Micro刺激)	+++++				①
20 決断の音にびっくりする。(Macro刺激)	+++++				①
21 決断の音にびっくりする。(Micro刺激)	+++++				①
22 決断の音にびっくりする。(Macro刺激)	+++++				①
23 決断の音にびっくりする。(Micro刺激)	+++++				①
24 決断の音にびっくりする。(Macro刺激)	+++++				①
25 決断の音にびっくりする。(Micro刺激)	+++++				①
26 決断の音にびっくりする。(Macro刺激)	+++++				①
27 決断の音にびっくりする。(Micro刺激)	+++++				①
28 決断の音にびっくりする。(Macro刺激)	+++++				①
29 決断の音にびっくりする。(Micro刺激)	+++++				①
30 決断の音にびっくりする。(Macro刺激)	+++++				①
31 決断の音にびっくりする。(Micro刺激)	+++++				①
32 決断の音にびっくりする。(Macro刺激)	+++++				①
33 決断の音にびっくりする。(Micro刺激)	+++++				①
34 決断の音にびっくりする。(Macro刺激)	+++++				①
35 決断の音にびっくりする。(Micro刺激)	+++++				①
36 決断の音にびっくりする。(Macro刺激)	+++++				①
37 決断の音にびっくりする。(Micro刺激)	+++++				①
38 決断の音にびっくりする。(Macro刺激)	+++++				①
39 決断の音にびっくりする。(Micro刺激)	+++++				①
40 決断の音にびっくりする。(Macro刺激)	+++++				①
41 決断の音にびっくりする。(Micro刺激)	+++++				①
42 決断の音にびっくりする。(Macro刺激)	+++++				①
43 決断の音にびっくりする。(Micro刺激)	+++++				①
44 決断の音にびっくりする。(Macro刺激)	+++++				①
45 決断の音にびっくりする。(Micro刺激)	+++++				①
46 決断の音にびっくりする。(Macro刺激)	+++++				①
47 決断の音にびっくりする。(Micro刺激)	+++++				①
48 決断の音にびっくりする。(Macro刺激)	+++++				①
49 決断の音にびっくりする。(Micro刺激)	+++++				①
50 決断の音にびっくりする。(Macro刺激)	+++++				①
51 決断の音にびっくりする。(Micro刺激)	+++++				①
52 決断の音にびっくりする。(Macro刺激)	+++++				①
53 決断の音にびっくりする。(Micro刺激)	+++++				①
54 決断の音にびっくりする。(Macro刺激)	+++++				①
55 決断の音にびっくりする。(Micro刺激)	+++++				①
56 決断の音にびっくりする。(Macro刺激)	+++++				①
57 決断の音にびっくりする。(Micro刺激)	+++++				①
58 決断の音にびっくりする。(Macro刺激)	+++++				①
59 決断の音にびっくりする。(Micro刺激)	+++++				①
60 決断の音にびっくりする。(Macro刺激)	+++++				①
61 決断の音にびっくりする。(Micro刺激)	+++++				①
62 決断の音にびっくりする。(Macro刺激)	+++++				①
63 決断の音にびっくりする。(Micro刺激)	+++++				①
64 決断の音にびっくりする。(Macro刺激)	+++++				①
65 決断の音にびっくりする。(Micro刺激)	+++++				①
66 決断の音にびっくりする。(Macro刺激)	+++++				①
67 決断の音にびっくりする。(Micro刺激)	+++++				①
68 決断の音にびっくりする。(Macro刺激)	+++++				①
69 決断の音にびっくりする。(Micro刺激)	+++++				①
70 決断の音にびっくりする。(Macro刺激)	+++++				①
71 決断の音にびっくりする。(Micro刺激)	+++++				①
72 決断の音にびっくりする。(Macro刺激)	+++++				①
73 決断の音にびっくりする。(Micro刺激)	+++++				①
74 決断の音にびっくりする。(Macro刺激)	+++++				①
75 決断の音にびっくりする。(Micro刺激)	+++++				①
76 決断の音にびっくりする。(Macro刺激)	+++++				①
77 決断の音にびっくりする。(Micro刺激)	+++++				①
78 決断の音にびっくりする。(Macro刺激)	+++++				①
79 決断の音にびっくりする。(Micro刺激)	+++++				①
80 決断の音にびっくりする。(Macro刺激)	+++++				①
81 決断の音にびっくりする。(Micro刺激)	+++++				①
82 決断の音にびっくりする。(Macro刺激)	+++++				①
83 決断の音にびっくりする。(Micro刺激)	+++++				①
84 決断の音にびっくりする。(Macro刺激)	+++++				①
85 決断の音にびっくりする。(Micro刺激)	+++++				①
86 決断の音にびっくりする。(Macro刺激)	+++++				①
87 決断の音にびっくりする。(Micro刺激)	+++++				①
88 決断の音にびっくりする。(Macro刺激)	+++++				①
89 決断の音にびっくりする。(Micro刺激)	+++++				①
90 決断の音にびっくりする。(Macro刺激)	+++++				①
91 決断の音にびっくりする。(Micro刺激)	+++++				①
92 決断の音にびっくりする。(Macro刺激)	+++++				①
93 決断の音にびっくりする。(Micro刺激)	+++++				①
94 決断の音にびっくりする。(Macro刺激)	+++++				①
95 決断の音にびっくりする。(Micro刺激)	+++++				①
96 決断の音にびっくりする。(Macro刺激)	+++++				①
97 決断の音にびっくりする。(Micro刺激)	+++++				①
98 決断の音にびっくりする。(Macro刺激)	+++++				①
99 決断の音にびっくりする。(Micro刺激)	+++++				①
100 決断の音にびっくりする。(Macro刺激)	+++++				①

縦の発達

横の発達

P 目標設定（実態把握で得た学習課題等を整理する。）

①課題整理シート （リストの巻末）

認知（聴） Ⅱ-6	Ⅱ-6	快反応が見られる音がある。
--------------	-----	---------------

リストの発達段階等を記入。

具体的な指導目標

楽器の音を聞いて、笑顔等で表出する。

支援・留意点

- ・反応が良い楽器の音を数秒間かせた後、児童の表出を待つ。
- ・一回聞くだけでは反応できないことが多いため、同じ音を複数回聞かせる。
- ・児童が安楽な姿勢である、座位保持椅子に座った姿勢で行う。
- ・聞かせたい音以外の刺激はできるだけ少なくし、静かな環境を設定する。

手引や教材・教具集等を活用して指導目標を達成するための支援・留意点を記入。



略称: 手引



教材・教具集

②個別の指導計画等

目標	手立て	評価
自立活動 ・楽器の音を聞いて、笑顔等で表出する。	・反応が良い楽器の音を数秒間かせた後、児童の表出を待つ。 ・一回聞くだけでは反応できないことが多いため、同じ音を複数回聞かせる。 ・児童が安楽な姿勢である、座位保持椅子に座った姿勢で行う。 ・聞かせたい音以外の刺激はできるだけ少なくし、静かな環境を設定する。	

③学習指導案（本時の目標）

児童	実態	目標	手立て
A	・太鼓の音には口元を緩めることが多いが、その他の音には注意を向けにくい。	・ギロや鈴の音に注意を向け、目を左右に動かしたり口元を緩めたりする。	・ギロや鈴の音を耳元で3秒程度聞かせた後、児童の表出を待つ。 ・一回聞くだけでは反応できないことが多いため、同じ音を複数回聞かせる。 ・児童が安楽な姿勢である、座位保持椅子に座った姿勢で行う。 ・聞かせたい音以外の刺激はできるだけ少なくし、静かな環境を設定する。

アセスメントチェックリストの課題を、個別の指導計画の目標や授業目標とリンクできるよ！



D 指導（リストと併せて手引等を活用することで、より効果的な指導を行う。）



略称: 手引

リストの発達段階と対応

領域番号	項目名	ページ番号
Ⅰ-3	音がしたことに反応する。	76
Ⅱ-4	音の強さや方向に反応する。	77
Ⅱ-5	他の音より反応の良い音がある。	77
Ⅱ-6	快反応が見られる音がある。	78
Ⅱ-7	音が止まると泣いたりする。	78

索引から指導方法を調べる。

認知（聴）
Ⅱ-6

目標 快反応が見られる音がある

関連項目 Ⅰ-3, Ⅱ-4, 5 Ⅱ-6 Ⅱ-6

目標達成のための手立て

- 音への反応を定安定させる。
・「他の音より反応が良い音がある」（聴Ⅱ-5）ことが前提の指導となる。反応の良い音を複数回聞かせ、音に対する反応を安定して表出できるようにする。
1 音が聞き取りやすい環境を整える
・同時に複数の音を聞かせないようにする等、聞かせたい音以外の聴覚刺激や触覚刺激はできるだけ少なくし、静かな環境を設定する。
・安楽で音に注意しやすい姿勢（仰臥位や側臥位、座位保持椅子に座った姿勢等）で行う。
- 快反応を見取る。
①反応が良い音を数秒間かせ。
②子供の表出を待つ。
③子供が心地良さそうな表情をする等の快反応を見取る。表情で読み取れない場合は、心拍数、身体の緊張具合等、細かい変化等も参考にする。
④音に対して快反応が見られたら、①から繰り返し行い、反応を安定させる。
⑤繰り返し行っても快反応が見られない場合は、他の音を聞かせて反応を促し、①から繰り返す。

【引用・参考文献】 1 【関連教材】 7

姿勢支援の手引

学習姿勢に関わる参考資料

その他の参考資料

学習指導案集

自立活動だより

自立活動実践事例集

3校合同自立活動実践事例集

自立活動ガイドブック

指導に関わる参考資料

教材・教具集

教材・教具に関わる参考資料

他の音より反応の良い音がある 等（聴Ⅱ-5.6）[p61]

タブレット端末

指導方法

- 音に注意を向けやすいように、聞かせたい音以外の音刺激やそれ以外の刺激を減らす。また、イヤフォン等を活用し、音に注意を向けやすいようにする。
- 「聞くよ」と前触れした声掛けをしてから、同じ音を複数回繰り返し聞かせ、音に対する子供の反応を確認する。
- 様々な音を同時に聞かせ、子供が快の表情を見せる音を見つける。

発達初期の子供は、衝撃音や電子音、大人にとっては不快な音を好むことがある。

【その他の関連領域】
人間関係Ⅱ-8と同様の項目である。

作り方・入手先
・全て無料アプリであり、入手可能。

【アプリ例】
Sound FX 動物の鳴き声
ハロウィンサウンド集
Funny Tones
Sound Sleeper

【タブレット端末の特色】
音の再現性が高く、同じ音を何度も繰り返し指導できる。

構成等	目的	重度・重複障害児の認知及びコミュニケーションに関する力のアセスメントを行う	
	対象発達年齢	0ヶ月～24ヶ月	
	分野・領域	コミュニケーション	：「要求表出」「人間関係」
		認知(I～Ⅳ段階)	：「聴覚・言語」「触覚等」「視覚等」
		認知(V～Ⅶ段階)	：「言語理解」「言語表出」「視覚・操作等」「数量・概念」「ADL」
	補助項目	健康・身体の動き等	：「健康の保持」「表出手段(表情・発声等)」 「表出手段(上肢の動き)」「姿勢保持・移動能力」

2 目的

アセスメントとは、「個人の状態像を理解し、必要な支援を考えたり、将来の行動を予測したり、支援の成果を調べること」といわれています。

特別支援教育においては、重度・重複障害の児童生徒(以下、重度・重複障害児)の指導を行っていく際に、個々の児童生徒の実態から教育的ニーズを的確に捉え、指導目標を設定し、適切な指導内容を定めていく必要があります。そのため、的確なアセスメントは、目標を設定し指導を行っていく上で根幹を成す、とても重要な位置にあります。

的確なアセスメント
↓
指導目標の設定
↓
適切な指導内容

しかし、実際の重度・重複障害児のアセスメントでは、方法が関係者からの聞き取りや行動観察に大きく依存している傾向があります。

的確なアセスメントを行うためには、心理・発達検査等も併せて活用していく方法が推奨されていますが、既存の心理・発達検査、チェックリスト等では、重度・重複障害児の多様な実態を包括的に把握できるものが、非常に少ないという状況がありました。理由としては、発達年齢 24 ヶ月未満に焦点を当てて研究された内容が極めて少ないことと、肢体不自由や視覚・聴覚障害を有していることによる困難さにより、チェックできる項目が限られてしまうこと等がありました。そのため、**重度・重複障害児が多く在籍している本校においては、指導目標を設定するに当たって、既存の心理・発達検査等を活用することに難しさがある**と感じていました。

自立活動の6区分の中に取り上げられているコミュニケーションに関する力は、学校生活全般において特に重要なもので、将来、児童生徒がよりよく生きていくために大切な力です。しかし、重度・重複障害児の多くは、身体の動きで自分の意思や気持ちを表出することに大きな制限があり、また、知的障害・視覚障害・聴覚障害等の影響によ

って周囲の情報を受け取ることに困難さがあります。さらに、言語でのコミュニケーションが困難である児童生徒が多く、児童生徒の伝えたい気持ちを教師が読み取ることが難しい場合もあります。このように、多くの児童生徒はコミュニケーションに大きな課題を抱えているため、学校教育の中でコミュニケーションに焦点を当てた指導は重要なこととなります。そして、その力を育てるためには、児童生徒の認知の力を伸ばすことが必要であると考えられます。

以上のような状況から、聞き取りや行動観察によるアセスメントの際に、可能な限り客観的に実態が把握できることを目指して、**重度・重複障害児を対象とした新たなチェックリスト**を作成しました(平成 26 年3月)。そして、8回の改訂を経て、今回、さらに細かな修正やキーワードの整理を行った ver.8.0 の発行に至りました(令和3年3月)。

3 内容

重度・重複障害児のアセスメントチェックリスト(以下、本リスト)は指導の手掛かりとして、日々の取組の中で活用できるものを目指しています。本リストでは重度・重複障害児の教育を行っていく上で重要な領域である**コミュニケーション力の発達**と、コミュニケーション力の基礎となる**認知力の発達**の2点に焦点を当てました。

そして、本校のような肢体不自由学校では発達の初期の段階にある児童生徒が多いため、その実態を細やかに把握できるように発達月齢 24 ヶ月未満に焦点を当て、項目数の充実を図りました。また、重度・重複障害児の発達のスピードはゆっくりとしたペースであることが多く、1年間の指導を経ても変化が小さいことがあります。そのため、児童生徒の小さな発達を確実に評価するために、チェックの方式は4段階評価としました。

○ 概要について

本リストは、認知・コミュニケーションの力を細やかにアセスメントするためのリストです。Ⅰ～Ⅳ段階では、領域としてコミュニケーション分野を中心とした「要求表出」「人間関係」と、認知分野を中心とした「聴覚・言語」「触覚等」「視覚等」の5領域があります。Ⅴ～Ⅶ段階ではコミュニケーション分野「要求表出」「人間関係」、認知分野「言語理解」「言語表出」「視覚・操作等」「数量・概念」「ADL(日常生活動作)」の7領域となります。各領域の発達の全体像を、巻末資料1「段階、領域ごとの発達の概要(Ⅰ～Ⅳ段階)」に掲載しておりますので、併せてご覧ください。次に段階、領域の内訳を表で示します。

段階 (月齢)	コミュニケーション		認知				
Ⅰ～Ⅳ (0～9)	要求表出	人間関係	聴覚・言語		触覚等	視覚等	
Ⅴ～Ⅶ (10～24)			言語理解	言語表出	視覚・操作等	数量・概念	ADL

これらの5・7領域に振り分けた項目は、さらに発達段階ごとに分けています。段階は下の表が基準です。段階の中の項目は、おおまかに発達段階・類似項目ごとに並んでいます。

段階	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅵ	Ⅶ
月齢	1ヶ月 (0日～30日)	2ヶ月 ～ 3ヶ月	4ヶ月 ～ 6ヶ月	7ヶ月 ～ 9ヶ月	10ヶ月 ～ 12ヶ月	13ヶ月 ～ 18ヶ月	19ヶ月 ～ 24ヶ月

○ 各領域のキーワード

Ⅰ～Ⅶ段階で計10領域の各段階に、その段階の特徴的な内容をキーワードとして設定しました。このキーワードは発達のポイントともなるものです。

キーワードの定義付けは、巻末資料2「キーワードの定義(Ⅰ～Ⅳ段階)」に掲載しています。これを参照することで、リストを活用する人が共通した認識の下でキーワードを使用することができます。

キーワードの関連は巻末資料「キーワード関連図」に掲載しています。これを用いることで、目標設定の際に、児童生徒に身に付けさせるべき力や他領域との関連性、今後の指導の展望等を導くことができます。キーワード関連図は、研究途上のものです。今後、より一層整合性を高め、活用しやすいものにしていきます。

10領域の主な内容、キーワード

コミュニケーション

要求表出 要求表出の基礎となる力から言葉での要求までについての領域(Ⅰ～Ⅶ段階)
キーワード…「不明確な表出」「明確な表出」「期待反応」「要求の芽生え」「大人の注意を引く」「要求の具体化」「自己主張の芽生え」等

人間関係 支援者との人間関係や社会性、自己理解等についての領域(Ⅰ～Ⅶ段階)
キーワード…「声への快反応」「特定の支援者への気付き」「物を介したやりとり」「他者意図の理解」「共感性」「社会性の芽生え」「自己意識の芽生え」「社会性の高まり」等

認知

聴覚・言語 聴覚・言語面での認知・理解・応答についての領域(Ⅰ～Ⅳ段階)
キーワード…「聴覚刺激への気付き」「音への快反応」「声の変化への気付き」「興味の拡大(聴覚)」等

言語理解 言語理解面での認知・理解についての領域(Ⅴ～Ⅶ段階)
キーワード…「名詞等の理解」「二語文の理解」「理解語彙の増加」等

言語表出 言語表出面での認知・応答についての領域(Ⅴ～Ⅶ段階)
キーワード…「言葉の模倣」「発語」「表出語彙の増加」「二語文等の表出」等

触覚等 主に触覚に関することで、物の認知や簡単な操作についての領域(Ⅰ～Ⅳ段階)
キーワード…「触覚・固有覚・前庭感覚刺激への気付き」「手・物への気付き」「把持」「単純な操作」「因果関係の理解(触覚)」等

視覚等 主に見ることの発達や目と手の協応の発達についての領域(Ⅰ～Ⅳ段階)
キーワード…「視覚刺激への気付き」「注視」「物への気付き(視覚)」「興味の拡大(視覚)」等

視覚・操作等 主に目と手の協応等の発達についての領域(Ⅴ～Ⅶ段階)
キーワード…「始点と終点の理解」「視覚情報の活用」「空間認知の高まり」等

数量・概念 主に数や量概念の初期段階についての領域(V～Ⅶ段階)
キーワード…「保存の概念」「図形概念の芽生え」「カテゴリー概念の芽生え」等

ADL(日常生活動作) 主に日常生活動作の初期段階についての領域(V～Ⅶ段階)
キーワード…「模倣」「生活場面での記憶の活用」「見立て・ごっこ遊び」等

また、認知・コミュニケーションのアセスメントに加え、基本的な健康・身体の動き等について、簡易的にアセスメントする補助項目を「健康の保持」、「表出手段(表情・発声等)」、「表出手段(上肢の動き)」、「姿勢保持・移動能力」の4つの領域に分けて設定しました。

健康・身体の動き等

健康の保持

日々の覚醒や体調、医療的ケア等について

表出手段(表情・発声等)

表情・発声等による表出手段について

表出手段(上肢の動き)

上肢の活用による表出手段について

姿勢保持・移動能力

姿勢保持・姿勢変換・移動能力等について

○ 課題整理シートについて

本リストには、チェックした内容をまとめるための課題整理シートがあります。シートには、「指導内容記入表」と「コミュニケーションに関するプロフィール表」の二つの表があります。指導内容記入表は本リストのチェック項目の中で児童生徒の重要な課題として選んだ項目に基づいて、個々の児童生徒の実態に合わせて具体的な指導目標を考えるためのものです。また、プロフィール表は、児童生徒の認知・コミュニケーションに関する力の全体像を分かりやすく把握するとともに、指導のポイントとなるキーワードを整理し、明確にするために活用します。

これらの課題整理シートを作成することは、本リストで行った実態把握を実際の児童生徒の指導につなげていくためのとても重要なプロセスとなります。

○ 項目等について

本リストの中では領域ごとの発達の流れを分かりやすくするため、複数の領域にわたって重複している項目が一部あります。(下記の例を参照)

例：要求表出Ⅱ-14 人間関係Ⅱ-6
そばにいる支援者に、注意を向ける。

以上に述べたこれらのチェック項目は、あくまで一般的な発達段階に沿って並べています。生活年齢や障害の状態によって発達の偏りがある場合は、必ずしもこれに当てはまるわけではありません。それらを踏まえ、児童生徒の認知・コミュニケーションの力の客観性のあるアセスメントにつながることを目指しています。

4 活用のポイント

本リストは児童生徒の実態にせまり、学習課題のヒントを得るためのツールとなることを目指しています。より有効に活用していくポイントとして次の2点が挙げられます。

○ 複数の支援者でアセスメントをする

重度・重複障害児の評価は、児童生徒の行動を支援者が解釈せざるを得ないため、支援者間に評価のずれが生じることが多くあります。本リストを活用し、共通の視点で児童生徒のことを考えることは、支援者間での実態の共通理解を持つことにつながります。この相互検証を通して、より客観的な実態把握が可能となるでしょう。

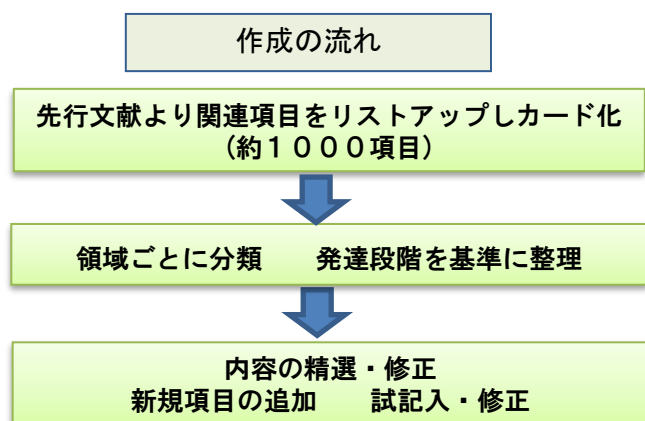
○ 時期を変えて複数回アセスメントをする

一定期間を置いて、再度アセスメントをすることで、児童生徒の変化を捉えたり、以前把握した実態を振り返ったりして検証することができます。特に重度・重複障害児の指導経験が浅い支援者は、数ヶ月単位で見直すことで、これまで不明確だった点が明確になることがあります。また、指導の過程で評価した項目の検証が進み、行動の再現性が低いことに気付けば、評価や目標値を当初のものから、より実態に沿った適当なものに修正する判断の根拠となります。

5 リストの作成過程

○ リスト作成過程概要

最初に重度・重複障害児の発達に関する文献研究に取り組みました。特に認知・コミュニケーションに関するものを中心にアセスメントの手法を調べ、実際に試行・分析を行いました。そして、文献研究で使用した心理・発達検査、チェックリストの中から本リスト作成の目的に沿ったものを精選・リストアップし、内容や発達段階ごとに整理していきました。その後、本リストの目的に沿うようにチェック項目の修正・新規追加を繰り返し行いました。



その際には、それぞれの項目の意図を明確にした上で、次の点に留意しながら、重度の知的障害・視覚障害・肢体不自由による制限があっても評価がしやすい項目を重視しました。

作成の留意点

- ・より細かいステップ（発達段階）
- ・初期の感覚の項目
- ・視覚、運動機能に依存しにくい項目

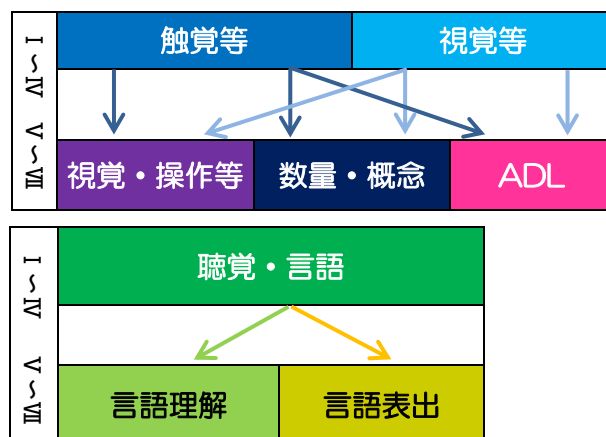
作成途中では、試行と併せて数回の校内研修を行い、より使用しやすく改良するために本校教職員から意見収集を行いました。これらを通して、既存の発達段階の項目を増やす、領域を更に細かく分ける等、改訂を重ねていきました。

○ ver.2.0～3.0における領域の整理の過程

ver.2.0の改訂では、ver.1.0の「感覚・認知」の領域を、「触覚等」と「視覚等」の二つの領域に分けました。視覚の発達と手の発達は並行してとらえることが一般的ですが、重度・重複障害児の中には視覚障害を有する児童生徒も多く、視覚を十分に活用できていないことがあります。そのため、ver.2.0では、初期の認知発達の段階について視覚を中心した認知発達と、触覚を中心とした認知発達に分けて考えています。IV段階までは触覚等の領域に、視覚

を活用しなくても達成しやすい項目をまとめました。

ver.3.0の改訂では、Ⅶ段階（19～24ヶ月）を加えました。また、目と手の協応等の視覚・触覚等の感覚を総合的に活用することが求められるV段階以降については、「触覚等」「視覚等」の領域を統合し、新たに「視覚・操作等」「数量・概念」「ADL(日常生活動作)」の3つの新領域に整理しました。さらに、V段階以降では「聴覚・言語」の発達が言語中心の発達に移行するため、「言語理解」と「言語表出」の2領域に分けました。



○ ver.4.0～8.0の改訂の過程

ver.4.0では「キーワード関連図」、ver.5.0では「段階・領域ごとの発達の概要（Ⅰ～Ⅳ段階）」「キーワードの定義（Ⅰ～Ⅳ段階）」、ver.6.0では「アセスメントチェックリスト活用の概要図」を追加しました。ver.7.0では、学習指導要領とのつながりを示す欄の追加や項目の修正を行いました。ver.8.0では、既存項目の学習指導要領とのつながりを示す欄の修正を行いました。毎年、内容の精選、修正等を行い、本リストがより活用しやすく、より精度の高いものとなるよう、改訂をしています。本リストは、重度・重複障害児の教育が充実することを目指し、アセスメント及び指導の手掛かりとして活用できるように作成しています。

6 活用の展望

本リストは、活用方法として、

- ・実態把握での行動観察の視点、共通の手段
- ・学習課題、指導内容設定の根拠
- ・APDCAサイクルを確立するためのツール
- ・個別の指導計画の目標
- ・関係者の共通理解・引き継ぎの資料
- ・重度・重複障害のある児童生徒の“育ち”と“学び”を理解する資料が挙げられます。

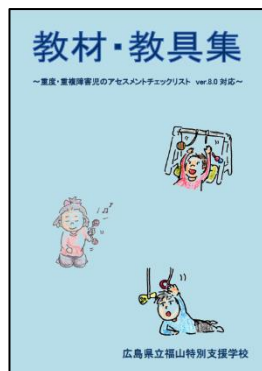
本リストは“2 目的”で述べたように、適切な指導内容を導くことを目指しています。したがって、アセスメントのみにとどまらず、この結果に基づき指導目標の設定、指導内容の選定をすることが必要です。

そこで、本リストの活用による指導の中で、有効であった手立てを整理・集約し、本リストの項目に対応した指導事例集として「重度・重複障害児の認知・コミュニケーションの指導の手引」を作成しました。毎年改訂を重ね、令和3年3月にはアセスメントチェックリスト ver.8.0 に対応したものを発行しました。これには、各項目に対応した指導の一例が記載されており、実際の指導のヒントとして活用することができます。そして、この手引を活用し手立てを共有化することで、組織としての専門性・指導力向上を狙っています。

さらに、指導の際に活用できる「教材・教具集」を作成しました。毎年改訂を重ね、令和3年3月にはアセスメントチェックリスト ver.8.0 に対応したものを発行しました。手引と併せて活用することで、より効果的な指導を行うことを目的としています。

また、本校では本リストの活用による授業改善を推進しており、学習指導案への児童・生徒観への本リスト活用結果の記載、課題整理シートのプロフィール表の指導案への貼付(Ⅲ・Ⅳ類型:主に自立活動を主とする教育課程の児童生徒)に取り組んでいます。加えて、本リストの活用結果を個別の指導計画等へ反映することを進めています。

今後は、学習指導要領改訂に応じて、本リストを実態把握のツールとして活用することを検討しています。本リストを活用することで、認知・コミュニケーション分野からのより細かな視点での実態把握が可能となり、自立活動6区分の視点からの情報を補足することが可能と思われます。また、目標設定の手続きの結果、自立活動の指導目標が本リスト項目と同等のものとなった場合、「指導の手引」から指導のヒントを得ることもできます。



7 引用・参考文献

- ・宇佐川浩 感覚と運動の高次化からみた子どもの理解 (2007) 学苑社
- ・遠城寺宗徳他 遠城寺式乳幼児分析的発達検査法 (1977) 慶應義塾大学出版会
- ・大伴潔他 言語・コミュニケーション発達スケール LC スケール (2008) 学苑社
- ・片桐和雄他 重症心身障害児の認知発達とその援助生 理心理学的アプローチの展開 (1999) 北大路書房
- ・川村秀忠 障害の重い子の早期発達診断 (2013) ジアース教育新社
- ・木原秀樹 270 動画でわかる赤ちゃんの発達地図 (2014) メディカ出版
- ・小池敏英他 肢体不自由特別支援学校における重度・重複障害児のコミュニケーション学習の実態把握と学習支援 (2011) ジアース教育新社
- ・小林芳文 MEPA-II 乳幼児と障害児の 感覚運動発達アセスメント (1992) コレール社
- ・坂口しおり 障害の重い子どものコミュニケーション 評価と目標設定 (2006) ジアース教育新社
- ・徳永豊 重度・重複障害児の対人相互交渉における共同注意 コミュニケーション行動の基盤について (2009) 慶應義塾大学出版会
- ・長崎勤 コミュニケーション発達と指導プログラム (1996) 日本文化科学社
- ・三宅和夫監修 KIDS 乳幼児発達スケール (1989) 発達科学研究教育センター
- ・長崎県立長崎特別支援学校 実態把握チェックリスト
- ・長崎自立活動研究会 (2010) 自立活動学習内容要素表
- ・田中美郷・進藤美津子 乳児の聴覚発達検査とその臨床および難聴児早期スクリーニングへの応用
- ・徳永豊 障害の重い子供の目標設定ガイド (2014) 慶應義塾大学出版会
- ・木舩憲幸 脳性まひ児の発達支援 調和的発達を目指して (2011) 北大路書房
- ・広島県教育委員会特別支援教育課 肢体不自由(運動障害)のある生徒等のためのアセスメント (2015)
- ・太田昌孝他 認知発達治療の実践マニュアル (1992) 日本文化科学社
- ・独立行政法人国立特別支援教育総合研究所 重複障害児のアセスメント研究 実践につなげやすい重複障害のある子どもの見え方とコミュニケーションに関する初期的な力のアセスメントブック (2008)
- ・文部科学省 2 特別支援学校 小学部・中学部学習指導要領 第7章 自立活動 特別支援学校, 高等部学習指導要領 第6章 自立活動 指導内容 (2009) 海文堂出版
- ・橋本正巳 障害の重い子どもへのかかわりハンドブック〜マルチアレンjingサポートの観点から〜 (2016) 全国心身障害児福祉財団

第2章

重度・重複障害児のアセスメントチェックリスト 及び課題整理シートの使い方

1 活用の手順

- (1) 本リストはチェック項目に直接マークを記入することで使用します。
- (2) 基本的には『おおよそできる』、『時々できる』にマークした項目から、領域ごとに2項目ずつ児童生徒の課題となる項目を選択してください。(※課題設定の基準は児童生徒の実態によってはこの限りではありません。)
- (3) チェックを基に課題整理シートを作成します。

2 本リストの使い方・記入例

- (1) 本リストの記入にあたって

ア それぞれの項目において、評価欄にある『できる』、『おおよそできる』、『時々できる』、『できない』の4点のいずれかにマークを記します。マークする基準としては、次の表を目安にしてください。

評価	割合	マークする基準
できる	8～10割	ほぼできていること
おおよそできる	5～7割	できることの方が多い
時々できる	1～4割	できないことの方が多い、まれにできることがある
できない	0割	できない、不可能

(記入例)

Ⅱ	7	不快の程度によって、泣き方や表情が変わる。		
Ⅱ	8	支援者から刺激・働き掛け(揺さぶり、くすぐり等)を受け、すぐに表情が変わる、視線を動かす等の反応がある。		
Ⅱ	9	支援者から数分間、刺激・働き掛けを受け続けると、笑う等の快反応がある。		
Ⅱ	10	支援者から快になる刺激・働き掛け(揺さぶり、くすぐり等)を受け、すぐに笑う等の快反応がある。		

イ 具体的な状況等、補足事項があれば記述欄に記入してください。

ウ 記入を始める場所は基本的にはⅠ段階からとしますが、児童生徒の実態に応じて、Ⅱ段階やⅢ段階から開始しても問題はありません。

エ 各領域のチェック項目は、おおよそ発達段階ごとに並べています。児童生徒の実態に応じて判断し、記入を終了してください。(例)「できない」の項目が7つ以上続く。

オ 本リストは担任との関係、学校での様子を基に記入するようにしてください。一部の項目については、記入者と対象者との人間関係が大きく影響すると思われます。そのため、対象者と記入者間において、ある程度の関係性が構築できていることが、精度の向上につながります。

カ 児童生徒の心身面が安定し、良好な状態の時を基本として評価します。

キ 過去にできたことがある、聞いたことがある・・・といった不確定な要素は排除します。

ク 障害特性から達成が困難なことについては項目をとばしてアセスメントを続けます。代替手段を用いて達成した項目についても「できる」等の評価が可能です。(例:構音障害があるため、手話でコミュニケーションをとる。)

- (2) 課題の設定について

基本的には「時々できる」「おおよそできる」にマークがついた項目が、児童生徒の力を伸ばすことができるポイントであると考えられます。それらの項目の中から、特に重点的に指導すべき項目を各領域で選択してください。選択した項目は本リストの記述欄に○の目印をつけます。その項目が児童生徒の課題となり得ます。

※既にほぼ達成されている項目でも、「その項目の力をさらに広げたい、高めたい、他の領域との関連性が高く好影響がある」等の意図があれば、その項目を課題として設定することも可能です。

※児童生徒の実態によっては、各領域での課題が0～1項目になることもあります。

* 記入例及び欄の説明

①発達段階

②領域番号 領域ごとの通し番号。

④評価欄 4段階の中から、該当する欄にチェックする。

⑤記述欄 具体例・補足・重点課題の記入を行う。

⑥手引き連携欄 ページ番号を記載する。

発達段階	領域番号	項目	できない	時々できる	おおむねできる	記述欄	手引	国語	算数	キーワードとの関連
I ①不明確な表出										
I	1	何らかの表出がある。	+	+	+					
I	2	生理的不快の表出がある。 (※暑さ・寒さ・痛み等を支援者が読み取れるよう示すことができる)	+	+	+					
I	3	不快になる刺激・働き掛けがある。	+	+	+					
I	4	優しく抱きかかえると心地良さそうになる。 (例：緊張が緩む・表情が緩む・脈や呼吸が安定する等)	+	+	+					
I	5	刺激・働き掛けを受けて、何らかの表出がある。	+	+	+		8			①
I	6	支援者から数分間、刺激・働き掛けを受け続けると、表情が変わる、視線を動かす等の反応がある。	+	+	+	課題とする項目に○印をつける。				①
II ②明確な表出 ③大人への注意										
II	7	不快の程度によって、泣き方や表情が変わる。	+	+	+	抱っこをして揺らすと繰り返し笑顔が出やすい。	10	B		②
II	8	支援者から刺激・働き掛け(揺さぶり、くすぐり等)を受け、すぐに表情が変わる、視線を動かす等の反応がある。	+	+	+		11			②
II	9	支援者から数分間、刺激・働き掛けを受け続けると、笑う等の快反応がある。	+	+	+		12			②
II	10	支援者から快になる刺激・働き掛け(揺さぶり、くすぐり等)を受け、すぐに笑う等の快反応がある。	+	+	+					②
II	11	支援者から快になる刺激・働き掛けを受け、発声による快反応がある。	+	+	+	誰が見ても快であると捉えることができる笑顔で表出できるようにしたい。				②
II	12	快を明確に表出する。(例：誰が見ても、快であることがわかる。)	+	+	+		B			②
II	13	支援者の声掛けに対して、笑う等の快反応がある。	+	+	+	機能的に困難な場合は「できない」にマーク。記述欄にその理由等を備考で記す。		知アA		②
II	14	そばにいる支援者に、注意を向ける。(例：瞬きが増える、身体の動きが止まる、注視する等)	+	+	+		3		AアBア	③
II	15	支援者の声掛けに対して、発声による快反応がある。	+	+	+	気管切開をしているため、発声ができない。	14	A		③
II	16	繰り返しの働き掛けに対して、笑う・声を出す等のサイクルを3回以上維持する(例：「支援者がくすぐる」⇔「子供が笑う」)	+	+	+			Aア		②③

⑦学習指導要領 関連している国語・算数の内容を記載。
算数の「基礎的基本的な概念や性質」に関わる発達初期段階の項目には、“基”と記載。

⑧キーワードと各項目の関連欄

3 課題整理シートの使い方・記入例

(1) 指導内容記入表について

課題として設定した項目についての指導内容等を分析してまとめ、具体的な指導目標を設定するための表です。

リストの中から課題として選定した項目の発達段階、領域番号、項目の文章を欄に転記します。次に、実態に応じたより具体的な指導目標と、支援・留意点についても必要に応じて記していきます。

* 指導内容記入表 記入例及び欄の説明

分野	領域	発達段階	領域番号	課題とする項目	具体的な指導目標	支援・留意点
認知	聴覚・言語	Ⅱ	6	快反応が見られる音がある。	楽器の音を聞いて、笑顔等で表出する。	・反応が良い楽器の音を数秒間かせた後、児童の表出を待つ。 ・一回聞くだけでは反応できないことが多いため、同じ音を複数回聞かせる。 ・児童が安楽な姿勢である、座位保持椅子に座った姿勢で行う。 ・聞かせたい音以外の刺激はできるだけ少なくし、静かな環境を設定する。

①領域名
各領域の名称を記載する。

②発達段階
課題とする項目の発達段階を記入する。

③領域番号
課題とする項目の領域番号を記入する。

④課題とする項目
課題とする項目の内容をリストより転記する。

⑤具体的な指導目標
課題とする項目をベースに、児童生徒に合わせたより具体的な指導目標を記入する。

本リスト中の項目をそのまま「課題とする項目」→「具体的な指導目標」にすることも可能です。（項目作成時に、項目が日々の指導目標として活用できることを意識して作成しています。）

⑥支援・留意点
手引や教材・教具集等を活用して指導目標を達成するための支援・留意点を記入する。




(2) コミュニケーションに関するプロフィール表について

各領域の児童生徒が到達している発達段階を網掛け(到達基準は 80%)し、「課題とする項目」に関連したキーワードに下線を引くことで、認知・コミュニケーションに関する力の全体像をわかりやすく把握することができ、指導のポイントとなるキーワードを整理し、明確化することができます。

* コミュニケーションに関するプロフィール表 記入例

月 齢	段 階	コミュニケーション		認知				
		要求表出	人間関係	聴覚・言語		触覚等	視覚等	
0 5	I	不明確な表出	人の動き掛けによる 快反応	聴覚刺激への気付き		触覚・固有覚・前庭感覚刺激 への気付き	視覚刺激への気付き	
2 5	II	明確な表出 大人への注意	声への快反応 大人への注意	音への快反応 音の変化への気付き 声への快反応 聴覚刺激への注意の高まり		感触の変化への気付き 手・物への気付き	注視 追視	
4 5	III	期待反応 声のやりとり 応答性のある行動 大人への積極性 大人への積極性 物への働きかけ	特定の支援者への 気付き 大人への積極性 感情の分化	声の変化への気付き 音の方向性への気付き 特定フレーズへの気付き 音楽への快反応		把持 単純な操作 リーチング 単純な因果関係の理解	物への気付き(視覚) リーチング	
7 5	IV	要求の芽生え YES/NO による要求 指さし理解	物を介したやりとり 他者意図への気付き 自分への気付き	興味の拡大(聴覚) 特定フレーズへの意味付け 言葉の理解の芽生え		探索的操作 因果関係の理解(触覚) 操作性の高まり	興味の拡大(視覚) 物の永続性 探索的行動 因果関係の理解(視覚)	
						 	 	 
				言語理解	言語表出	視覚・操作等	数量・概念	ADL
10 5	V	大人の注意を引く 具体物を用いた要求 指さし要求	他者意図の理解 やりとりの拡大 共感性	名詞等の理解 言語指示への応答	言葉の模倣 発語	空間認知の芽生え 始点と終点の理解 手指の活用	保存の概念 比較の概念	模倣 生活場面等の理解
13 5	VI	要求の具体化・ 明確化 言語を伴う要求	社会性の芽生え 共感性の高まり	二語文の理解 質問への応答 動詞・形容詞等の理解	表出語彙の増加 名詞等の発語	視覚情報の活用	図形概念の芽生え 数・量概念の芽生え	生活場面での記憶 の活用 見立て・ごっこ遊び への興味
19 5 24	VII	自己主張の芽生え 二語文での要求	他の子供への興味 自己意識の芽生え 社会性の高まり	理解語彙の増加 カテゴリー概念の 芽生え	言葉での要求 二語文等の表出	道具の使用 空間認知の高まり	数・量概念の高まり カテゴリー概念の 芽生え	見立て・ごっこ遊び 食事・排泄・衣服・ 清潔等 ADL の基礎

4 語句について

本リストで使用されている語句は、以下の意味で使用しています。

【児童生徒の表出に関連する語句】

言葉	段階	意味
気付く	I ～	それまで気に留めていなかったところに注意を向けることができ、物事の実在や状態、違い等が分かるようになること。
反応する	I ～ III	刺激や働き掛けを受けて、緊張状態が変わる、表情が変わる、脈や呼吸が変化する等、表情・身体の動きに変化が起こること。
期待をあらわす	II ～	刺激や働き掛けを受けた後に、次の活動を予期し、期待しているかのように、表情・身体の動きが変化すること。
興味・関心がある	II ～	特定の事物や活動等に対して、より注意を向けたり、反応が良くなったりすること。
高まり	II ～	ある感情や理解、行動の度合・程度が次第に強くなっていくこと。
応答する	III 後半～	問い掛けや呼び掛けに意図を持って、答えること。
拡大	IV～	対象や方法などが大きく広がってくること。
芽生え	IV～	感情や理解の中に、これまでとは異なる新しいものが起こり始めてくること。
遊ぶ	IV～	子供が自発的にその行動を繰り返す、楽しめている状態。

【支援者の働き掛けに関連する語句】

言葉	段階	意味
働き掛け	全	視覚、聴覚(言葉掛けを含む)、触覚、体性感覚等、支援者が意図して子供に働き掛けたものであればどんな刺激でもよい。
声掛け	I ～ III	子供にとっての受け止めやすさを重視した、音節が少ない声でのアプローチ。言葉の意味は重視されない。
言葉掛け	III～	子供にとっての受け止めやすさを重視した、言葉の意味理解を考慮したアプローチ。
情動を共有する	～ III	情動とは子供の驚き・怒り・悲しみ・喜び等の一時的な感情であり、それらの感情に対して寄り添うように声掛け等を行うこと。
共感的言葉掛け	IV～	子供の表出に対して支援者が行う「楽しかったね。」「面白かったね。」等の子供の心情に寄り添うような言葉掛け。言葉の意味理解が促されるIV段階から有効である。
評価する	VI～	子供の表出に対して支援者が行う「すごかったね。」等の表出したことへのフィードバック。自身が褒められていると理解し、行動を繰り返すということにつながるのは、おおよそVI段階からである。
強化する	VI～	子供が表出した直後に、さらなる自発的な表出を促すように働き掛けること。

第3章

重度・重複障害児のアセスメントチェックリスト ～認知・コミュニケーションを中心に～

【コミュニケーション】

要求表出	13
人間関係	17

【認知】

聴覚・言語	21
言語理解	24
言語表出	26
触覚等	28
視覚等	31
視覚・操作等	34
数量・概念	36
ADL(日常生活動作)	38

【補助項目】

健康・身体の動き等	40
-----------	----

課題整理シート

プロフィール表

キーワード関連図

- 資料
- 1 段階・領域ごとの発達の概要（Ⅰ～Ⅳ段階）
 - 2 キーワードの定義（Ⅰ～Ⅳ段階）

以下よりダウンロードし、ご活用ください。

【重度・重複障害児のアセスメントチェックリスト】

福山特別支援学校HP → 教育研究 → アセスメントチェック

【課題整理シート】【プロフィール表】

福山特別支援学校HP → 教育研究 → アセスメントチェック

※課題整理シートの実際用の紙サイズはA3で、PDF版とWord版があります。

発達段階	領域番号	項目	できない 時々できる おおむね できる	記述欄	手引	国語	算数	キーワードとの関連
I ①不明確な表出								
I	1	何らかの表出がある。						①
I	2	生理的不快の表出がある。 (※暑さ・寒さ・痛み等を支援者が読み取れるよう示すことができる)						①
I	3	不快になる刺激・働き掛けがある。			4			①
I	4	優しく抱きかかえると心地良さそうになる。 (例：緊張が緩む・表情が緩む・脈や呼吸が安定する等)			4			①
I	5	刺激・働き掛けを受けて、何らかの表出がある。			5			①
I	6	支援者から数分間、刺激・働き掛けを受け続けると、表情が変わる、視線を動かす等の反応がある。			5			①
II ②明確な表出 ③大人への注意								
II	7	不快の程度によって、泣き方や表情が変わる。			6	B		②
II	8	支援者から刺激・働き掛け(揺さぶり、くすぐり等)を受け、すぐに表情が変わる、視線を動かす等の反応がある。			6			②
II	9	支援者から数分間、刺激・働き掛けを受け続けると、笑う等の快反応がある。			7			②
II	10	支援者から快になる刺激・働き掛け(揺さぶり、くすぐり等)を受け、すぐに笑う等の快反応がある。						②
II	11	支援者から快になる刺激・働き掛けを受け、発声による快反応がある。						②
II	12	快を明確に表出する。(例：誰が見ても、快であることがわかる。)			7	B		②
II	13	支援者の声掛けに対して、笑う等の快反応がある。			8	知ア A		②
II	14	そばにいる支援者に、注意を向ける。(例：瞬きが増える、身体の動きが止まる、注視する等)			8		Aア Bア	③
II	15	支援者の声掛けに対して、発声による快反応がある。			9	A		③
II	16	繰り返しの働き掛けに対して、笑う・声を出す等のサイクルを3回以上維持する(例：「支援者がくすぐる」⇔「子供が笑う」)			9	Aア		②③
III ④期待反応 ⑤声のやりとり ⑥応答性のある行動 ⑦大人への積極性 ⑧物への働き掛け								
III	17	支援者の声掛けに応じるように声を出す。 (※1回でもよい。)			10	知イ A		⑤⑥
III	18	好きな遊びをした後、もう一度して欲しいような表情をする。(例：遊びが終わったら残念そうな表情をする。)			10	A Bア		④

発達段階	領域番号	項目	できない 時々できる おおむね できる	記述欄	手引	国語	算数	キーワードとの関連
Ⅲ	19	繰り返し好きな遊びをした直後に遊びを繰り返そうとすると期待をあらわす。（例：笑顔になる、嬉しそうに声を出す等）	HHHH		11	知ア		④
Ⅲ	20	繰り返し好きな遊びをした後、合図で期待をあらわす。（例：短い言葉掛け、タッピング等）	HHHH		11	Bア		④
Ⅲ	21	嫌なことをされると、「ウー」等と声を出す・身体を反らす・四肢を動かすなどをして嫌な気持ちや怒りをあらわす。	HHHH			A B		⑥
Ⅲ	22	好きな遊びをした後、合図で期待をあらわす。	HHHH		12	B		④⑥
Ⅲ	23	好きな遊びをする前の合図で期待をあらわす。（例：くすぐる前の言葉掛けだけで、笑顔になる）	HHHH		12	知ア A B		④
Ⅲ	24	好きな遊びに使用する道具を見て期待をあらわす。	HHHH		13	A	Aア	④
Ⅲ	25	欲しい物を10秒以上注視する。	HHHH		13	A	Aア	④⑧
Ⅲ	26	支援者の言葉掛けに対して声を出すやりとりを複数回継続する。	HHHH		14	知イ Aイ		⑤⑥
Ⅲ	27	自分から支援者に働き掛ける。（例：身体に触れようとする、支援者に向けて発声する等）	HHHH		14	B		⑥⑦
Ⅲ	28	好きな遊びに使用する道具やおもちゃを見て、身振り・発声で期待をあらわす。	HHHH		15		Aア	④⑧
Ⅲ	29	支援者の決まった働き掛けに対し、身振り・発声で応答する。（例：「もう一回する？」の言葉掛けに声を出す。）	HHHH		15	Aイ		⑥⑦
Ⅲ	30	活動を繰り返してもらうために、自分から支援者に働き掛ける。	HHHH		16	B		④⑦
Ⅲ	31	身体の周りにある欲しい物を取ろうとする。	HHHH		16		Aア	⑧
Ⅲ	32	手の届かない所に欲しい物があるとき、それを取ろうとして手を伸ばす。	HHHH		17		Aア	⑧
Ⅲ	33	要求がある場合に、泣かずに声を出す等特定の行動をして支援者に伝えようとする。	HHHH		17	知ア		⑦
Ⅳ ⑨要求の芽生え ⑩YES/NOによる要求 ⑪指さし理解								
Ⅳ	34	「どうぞ」と物を差し出されると、受け取ろうとする。	HHHH		18	知ア A		⑨
Ⅳ	35	支援者が自分の動作や音声を模倣していることに気付く。	HHHH					⑨
Ⅳ	36	視線・声・身体を動かす等をして、相手の注意を引く。	HHHH			Aウ		⑨
Ⅳ	37	支援者からの「ちょうだい」に対し、何らかの応答をする。（物を渡せなくてもよい）	HHHH			知ア		⑨
Ⅳ	38	遊んでいるおもちゃを取り上げようとするとき怒る。	HHHH			Aウ		⑩

発達段階	領域番号	項目	できない 時々できる おおむね できる	記述欄	手引	国語	算数	キーワードとの関連
IV	39	嫌なとき、手や足で押しのける。				Aウ		⑩
IV	40	物が欲しいとき、その物のそばにいる支援者の方を見る。			18	B		⑨
IV	41	要求があるとき、身体を動かし支援者の注意を引く。				B		⑨
IV	42	要求があるとき、声を出して支援者の注意を引く。				B		⑨
IV	43	支援者の手を取って「やって」と要求をする。				B		⑨
IV	44	好きな物を提示され、欲しいかどうかの問いかけをされたとき、声や動きで要求をあらわす。			19	知ア A		⑩
IV	45	机上の対象物に手をくっつけて指さすと、注意を向ける。			19			⑪
IV	46	好きな遊びを提示され、したいかどうかの問いかけをされたとき、声や動きで要求をあらわす。			20	知ア A		⑨⑩
IV	47	複数の具体物を同時に提示されたとき、自分の好きな物を発声や腕を伸ばしたりして選択する。			20	知ア	Cア	⑪
IV	48	遠くにいる人を呼ぶように声を出したり、音を出したりする。（例：床を叩いて音を出して注意を引く）			21	A B		⑨
IV	49	机上の対象物を指さすと注意を向ける。			21		Aア	⑪
IV	50	前にある物を指さすと視線を動かし、その対象物を見る。			22	Cア		⑪
IV	51	身振りに声を伴わせて要求する。（例：取れない物を「んー」等と言って、取って欲しいことを伝える）			22	B		⑨
V ⑫大人の注意を引く ⑬要求手段の多様化 ⑭指さし要求								
V	52	選択を聞く場面で好きな物を決まって選ぶ。			23	Bア Cイ		⑭
V	53	支援者が見ている方向に視線を向ける。			23	Cア		⑫⑭
V	54	支援者が指さした物を見て、確かめるように支援者の顔を見る。						⑫⑭
V	55	支援者と一緒に欲しい物に指さしをする。				Aウ	Aア	⑭
V	56	支援者が指さした方向を振り返って見る。			24	Cア		⑭
V	57	話しかけるような調子でめちゃくちゃな言葉で支援者に向かって続けて発声する。				Aウ Bア		⑫
V	58	支援者の注意を自分に向けさせるために、物を使う。（例：支援者に向かって、笛を吹く）						⑫⑬

発達段階	領域番号	項目	できない 時々できる おおむね できる	記述欄	手引	国語	算数	キーワードとの関連
V	59	具体物を示し直接的な方法で要求をあらわす。 (例：一緒に遊んでほしい物を支援者に渡す)	HHHH			Aウ		⑬
V	60	「どうぞ」と自分から手渡しする。	HHHH			Aウ		⑬
V	61	物のやりとりのルールがわかり、「ちょうだい」という身振りを自分からする。	HHHH		24	Aウ		⑬
V	62	指さしで要求の対象を選択する。	HHHH		25	Aウ Bア		⑭
VI ⑮要求の具体化・明確化 ⑯言語を伴う要求								
VI	63	以前に遊んで面白かったおもちゃを指さし等で「やりたい」ということを伝える。	HHHH		25	Aウ Bア		⑮
VI	64	指さしに加えて、支援者を見る・声を出すなどの手段を組み合わせて要求を伝える。	HHHH			Aウ Cイ		⑮⑯
VI	65	いくつかの要求を簡単なサインで伝える。 (例：トイレに行きたいときに、お腹を叩いて伝える)	HHHH			Aウ		⑮⑯
VI	66	自分が何かに驚いたり、興味を持ったりしたことを支援者に伝えようとして指さしをする。	HHHH			Aウ Cイ		⑮⑯
VI	67	物や動作を見せようとして、支援者を呼ぶ。	HHHH					⑮
VI	68	スイッチ等を使って簡単な選択や要求をする。	HHHH			知ア Aイ		⑯
VI	69	言葉や手話等を使って簡単な選択や要求する。	HHHH			知ア Aイ		⑯
VI	70	困難なことに会おうと、自分のできるサイン等を使用し、多くの人に助けを求める。	HHHH			Aウ		⑯
VI	71	具体物と言葉を使用し、要求する。(例：筆記用具を示し、「ワンワン」等と言って犬を書けと伝える。)	HHHH			Aア Aウ		⑯
VII ⑰自己主張の芽生え ⑱二語文での要求								
VII	72	様々なことに対して、自分でしたいと要求する。	HHHH			Aウ		⑰
VII	73	思い通りいかないと泣く。	HHHH			Aイ Aウ		⑰
VII	74	言いたいことがたくさんあり、「あのね」と言おうとするが、後が続かない。	HHHH			知ア Aウ Bア		⑰
VII	75	叫び声や身振りではなく、言葉が支援者への要求表出の主要な手段となる。	HHHH			知ア Aア Aウ		⑱
VII	76	2語文で要求する。	HHHH					⑱

発達段階	領域番号	項目	できない 時々できる おおよそ できる	記述欄	手引	国語	算数	キーワードとの関連
I ①人の働き掛けによる快反応								
I	1	人に抱きかかえされることで筋緊張・表情等が緩む。			27			①
I	2	抱きかかえをされての心地よい揺れにより、筋緊張・表情等が緩む。			27			①
I	3	支援者の手に触れたり、自分の手に触れられたりすることに過敏性がない。			28			①
II ②声への快反応 ③大人への注意								
II	4	不安な状況のときに抱きかかえられると落ち着く。			28			①
II	5	音よりも人の声によく反応する。			29			②
II	6	そばにいる支援者に、注意を向ける。(例：瞬きが増える、身体の動きが止まる、注視する等)			29		A ア B ア	③
II	7	笑顔でやさしく声掛けをすると微笑む。(※聴覚情報のみでもよい)			30	A		②
II	8	笑い声が聞こえると、微笑んだり笑顔になったりする。			30	A		②
II	9	両手を触れ合わず、指を口腔内に入れる等、積極的に自分の身体を触ろうとする。			31		A ア	⑨
II	10	手をくすぐる等の簡単な手遊びを好む。			31			③
III ④特定の支援者への気付き ⑤大人への積極性 ⑥感情の分化								
III	11	担当の支援者が関わりと反応や応答がよくなる。			32			④
III	12	支援者が歌うと、声に注意を向け聞き入る。			32			④
III	13	担当の支援者の声に気付く。(※聴覚情報のみ)			33	C		④
III	14	担当の支援者の顔が分かる。(※視覚情報のみ)					A ア	④
III	15	支援者の顔に触れる等、人の顔に興味を示す。			33			⑤
III	16	支援者が手を差し出すと、その手に触れようとする。			34			⑤
III	17	担当の支援者に対して、自分から視線を向けたり声を出したりする。			34			④⑤
III	18	自分が出した声を支援者に真似されると喜ぶ。			35	知イ		④⑤

発達段階	領域番号	項目	できない 時々できる おおよそ でできる	記述欄	手引	国語	算数	キーワードとの関連
Ⅲ	19	愛着をしめし、自分から手を出してくる。						⑤
Ⅲ	20	優しい声や怒った声等を聞くと、喜んだり不安そうな表情をしたりする。			35	C		⑥
Ⅲ	21	いないいないばあをすると喜ぶ。（視覚的に物が見えたり隠れたりする遊びであれば似たような遊びでもよい）			36		A ア	⑤
Ⅲ	22	知らない人に不安をしめす。						④
Ⅳ ⑦物を介したやりとり ⑧他者意図への気付き ⑨自分への気付き								
Ⅳ	23	支援者からの動作による働きかけに応答する。（例：「おいで」と言って両手を差し出すと、両手を上げて抱かれようとする）			36	A イ		⑧
Ⅳ	24	鏡に映った自分の顔を見て笑いかけたり触ったりする。			37			⑨
Ⅳ	25	泣いていたり不安な状況のときに特定の支援者に働き掛けられると落ち着く。（例：抱きかかえ、タッピング）			37			④
Ⅳ	26	困ったときに支援者の方を見る。			38	B		⑤
Ⅳ	27	何かを伝えるように、支援者に手を伸ばしたり声を出したりする。				知ア B		⑧
Ⅳ	28	支援者が、自分の動作や音声を模倣していることに気付く。				知イ		⑧
Ⅳ	29	支援者の介助に対して協力する様子をあらわす。			38			⑧
Ⅳ	30	名前を呼ぶと、呼ばれた方を向く。			39	知ア 知イ A イ		⑨
Ⅳ	31	支援者が関心を向けている物に対し、興味があり、支援者や物に手を伸ばす。					A ア	⑧
Ⅳ	32	自分から物を落として、支援者が大げさに反応することを楽しむ。			39			⑦
Ⅳ	33	支援者がボールを転がすと、ボールを返す。（動きのみ）						⑦
Ⅳ	34	支援者の簡単な動作を模倣する。（例：バイバイ等）			40			⑧
Ⅴ ⑩他者意図の理解 ⑪やりとりの拡大 ⑫共感性								
Ⅴ	35	「いけません」と言われたり、その身振りを見せられたりすることで行動をやめる。				A イ		⑩⑪
Ⅴ	36	「どうぞ」と言われて支援者から物を渡されると受け取る。			40	知ア A イ		⑩⑪
Ⅴ	37	やりとり遊びを好む。（例：子供の手を叩くと、叩き返そうとすることを繰り返す）				知イ		⑪
Ⅴ	38	促されると、他の子供や見慣れた支援者に動作等であいさつする。				A イ		⑪

発達段階	領域番号	項目	できない 時々できる おおよそ でできる	記述欄	手引	国語	算数	キーワードとの関連
V	39	気に入った物を自分の物にしようとしたり、取られると怒ったりする。						⑩
V	40	「ちょうだい」と言われた方にボールを投げる。				知ア アイ		⑪
V	41	ほめられると嬉しそうにする。			41	知ア アイ		⑫
V	42	自分の名前を呼ばれると声を出したり、手を上げたりして返事をする。			41	知ア 知イ		⑨⑪
V	43	支援者の顔色を気にしながら遊ぶ。（例：嬉しいときは共感を求めるように支援者の顔を見る）						⑫
V	44	遊んでいる物を支援者にかざしたり見せたりする。			42	Bア Cイ		⑪⑫
VI ⑬社会性の芽生え ⑭共感性の高まり								
VI	45	支援者と交代でボールを投げ合う遊びを好む。				知イ		⑪⑬
VI	46	支援者の興味を引こうとし、反応を期待して行動する。						⑬⑭
VI	47	子供が何かをしたとき、ほめられるとその行動を繰り返す。						⑬⑭
VI	48	自分の関心をもったものや出来事を指さしで知らせる。			42	Aウ Bア Cイ		⑭
VI	49	遊んでいる物を支援者に自分から渡す。				Cイ		⑬
VI	50	支援者が痛がっている状況で、その人の顔を心配そうに見る。						⑭
VI	51	支援者との役割交代を伴った遊びができる。（例：追いかけられると逃げ、途中で自分から追いかける。）				知イ		⑬
VI	52	支援者から離れて遊ぶ。						⑬
VI	53	他の子供と一緒にいて、それぞれ別の遊びをする。						⑬
VI	54	正しいとされる行動をしようとする。（例：トイレが終わったら手を洗いたがる）						⑬
VI	55	「いけない」と言うと、かえってふざけ、その行為をする。				Aイ		⑬
VII ⑮他の子供への興味 ⑯自己意識の芽生え ⑰社会性的高まり								
VII	56	他の子供に関心を示し、自分から関わる。						⑮
VII	57	指示されることを嫌がり、何でも自分でやりたがる。				Aウ		⑯
VII	58	他の子供と2～5分一緒に遊ぶ。（例：自動車遊び、ボール転がし）						⑮⑰

発達段階	領域番号	項目	できない 時々できる おおよそ できる	記述欄	手引	国語	算数	キーワードとの関連
VII	59	他の子供におもちゃを貸す。						⑮⑰
VII	60	他の子供が支援者の膝に上がると、怒り他の子供をおしのける。						⑮
VII	61	怒られそうになると支援者の注意をそらす。						⑮
VII	62	「～ちゃんはどこ？」と自分のことを聞かれると、自分を指さす。				知ア アイ		⑮
VII	63	他の子供の後をくっついて歩く。						⑮
VII	64	自分より年下の子供に興味・関心を持ち、ちょっかいを出す。						⑮⑰
VII	65	他の子供のしぐさを見て模倣する。				Cエ		⑮
VII	66	自分のことを「～ちゃんは…」と愛称を使って表現する。						⑮
VII	67	他の子供と手を繋ごうとしたり、くっつくとする。						⑮⑰
VII	68	他の子供の名前を言う。						⑮
VII	69	他の子供が欲しがれば、おもちゃを貸したり、食べ物を分けたりする。						⑮⑰
VII	70	自分の要求を叶えてもらうまで、椅子に座って1分以上待つ。						⑰
VII	71	支援者と交互に会話を行うことが2往復程度できる。						⑰
VII	72	欲しい物があっても我慢して待つ。						⑰
VII	73	自分の要求が理解されなかった場合、繰り返したり置き換えたりして我慢強く伝えようとする。				Aウ Bア		⑰
VII	74	他の子供におもちゃ、洋服を見せびらかせて得意になる。						⑮⑮

発達段階	領域番号	項目	できない 時々できる おおよそ できる	記述欄	手引	国語	算数	キーワードとの関連
Ⅰ ①聴覚刺激への気付き								
I	1	突然の音にびくつとする。(Moro反射)						①
I	2	急に大きな音がするとまぶたが閉じる。(瞬目反射)						①
I	3	大きな音(90dB程度)に反応する。 (例：大声)			44			①
Ⅱ ②音への快反応 ③音の変化への気付き ④声への快反応 ⑤聴覚刺激への注意の高ま								
II	4	音がしたこと(60dB程度)に反応する。 (例：普通の会話)			44			①
II	5	他の音より反応の良い音がある。			44			②
II	6	快反応が見られる音がある。			45			②
II	7	音が止まったことに気付く。			45			③
II	8	反応の良い音が他の音に変わったことに気付く。			46			③
II	9	音の変化に反応する。			46			③
II	10	繰り返しの声掛けを好む。(例：ころころ…, こしょこしょ…, 等)			47	知ア		④
II	11	音よりも人の声によく反応をする。			47			④
II	12	身体が動いているときに話しかけられると動作を止める。			48	知ア		⑤
II	13	十数秒程度、音や声掛けを身体の動きを止めて聞く。			48	知ア		⑤
Ⅲ ⑥声の変化への気付き ⑦音の方向性への気付き ⑧特定フレーズへの気付き ⑨音楽への快反応								
III	14	日常の色々な音に笑顔等の好反応を示す。						②
III	15	不意の音や聞きなれない音、珍しい音に好反応を示す。			49			③
III	16	突然触れられると緊張するが、予告の声掛けをされてから触れられると緊張しない。			49			①⑧
III	17	支援者の言葉掛けのリズム・高低・声色の変化に気付く。			50	知ア		⑥
III	18	リズム・高低に変化をつけた言葉掛けや声色を変化させた言葉掛けに笑顔等の好反応を示す。			50	知ア		⑥

発達段階	領域番号	項目	できない 時々できる おおよそ できる	記述欄	手引	国語	算数	キーワードとの関連
Ⅲ	19	言葉掛けをしたり歌を歌ったりしてやると、支援者の方に顔を向けたり眼を向けたりする。			50	知イ		⑤⑦
Ⅲ	20	音楽が聞こえると、身体の動きを止める等してそれに注意を向ける。			51			⑨
Ⅲ	21	音や声がした方向に、顔を向けたり眼を向けたりする。			51			⑦
Ⅲ	22	特定の支援者の声によく反応する。			52			⑥
Ⅲ	23	歌や音楽、お話等を聞いて、楽しそうに身体を動かす。				知イ		⑨
Ⅲ	24	特定の単語や話題を理解している様子を表す。（例：スプーンを目の前に出し「食べる」と聞くと、口を開く。）			52	知ア		⑧
Ⅲ	25	特定の音がなんらかの前触れを示していることに気付く。（例：ベルの音が鳴ると揺さぶり遊びがはじまる）			53			⑧
Ⅲ	26	目の前で声を掛けられると、自身に話しかけられていると気付く。			53	知ア		⑦
Ⅲ	27	他に音がある環境の中で、よく知っている歌が聞こえてくると反応がある。			54			⑥
Ⅲ	28	母音と子音の喃語を発声する。（例：アー、ブー等）						⑥
Ⅲ	29	自分が出した声を支援者に真似されると喜ぶ。			54	知イ		⑧
Ⅲ	30	優しい声や怒った声等を聞くと、喜んだり不安そうな表情をしたりする。			55			⑥
Ⅲ	31	自分から机や床を叩く行為を繰り返す。						⑤
Ⅳ ⑩特定フレーズへの意味付け ⑪興味の拡大（聴覚） ⑫言葉の理解の芽生え								
Ⅳ	32	具体物を伴った言葉掛けに応答する。（例：支援者が目の前でお茶を提示して、「おちゃ」と言葉掛けをすると口が開く）				知ア A		⑫
Ⅳ	33	特定の言葉掛けに対して一定の反応がある。（例：「食べる」と聞くと口が動く）			55	知ア A		⑩
Ⅳ	34	自分の名前を呼ばれたとき反応がある。（例：振り向く、静止する、目を合わせる等）			56	知イ A		⑩
Ⅳ	35	身振りを伴った言葉掛けに応答する。（例：支援者がジェスチャーの後「ちょうだい」の言葉掛けをし、子供が物を渡す）			56	知ア A		⑫
Ⅳ	36	小さい音（20dB程度）に気付いて振り向く。（例：耳元の目覚まし時計のカチコチという音）						⑪
Ⅳ	37	数メートル離れた場所から声を掛けられて、反応がある。			57	A		⑪
Ⅳ	38	音楽の変わり目に反応する。			57			⑪

- 23 -

発達段階	領域番号	項目	できない 時々できる おおそ でできる できる	記述欄	手引	国語	算数	キーワードとの関連
V ⑬名詞等の理解 ⑭言語指示への応答								
V	42	言葉だけの話し掛けがわかって応じる。 (例:「いけません」等の言葉掛けに応じて、行動をやめる)				A		⑭
V	43	物の名称のいくつかを理解する。			60		Aア	⑬
V	44	歌や音楽が終わることを意識する行動ができる。 (例:揺らしている身体を止める)				知ア A		③
V	45	聞いて分かる言葉が5個程度ある。			60		Aア	⑬
V	46	「ちょうだい」の言葉掛けに応じて、手に持っている物を渡す。			61	知ア A		⑬
V	47	絵本に興味を示し、本を読むように絵を見る。				知イ		⑬
VI ⑮二語文の理解 ⑯質問への応答 ⑰動詞・形容詞等の理解								
VI	48	いくつかの二語文の指示を理解する。						⑮
VI	49	「～はどれ?」「～はどこ?」と聞くと指さして示す。			61	Bア		⑯
VI	50	目の前にない物の名称をたずねると周りを見渡して探し、指さし等で答える。				Bア	Aア	⑯
VI	51	「～しましょう」がわかって行動する。			62			⑯
VI	52	本を見て、本を読んでいるように、何かしきりに言っている。						⑫
VI	53	「熱い」「冷たい」がわかる。						⑰
VI	54	「明るい」「暗い」がわかる。						⑰
VI	55	性質を表す言葉を理解する。(例:美味しい, 甘い, しよっぱい, きれい等)						⑰
VII ⑱理解語彙の増加 ⑲カテゴリー概念の芽生え								
VII	56	目, 耳, 口, 鼻等の体の部位で指示されたところをさす。						⑱
VII	57	物を指さして「～ちょうだい」と言うと正しく取って渡す。(※指さし+言葉)						⑱
VII	58	「～をちょうだい」と言うとその物を正しく取って渡す。(※言葉のみ)						⑱
VII	59	「おしまい」と言うとその行動をやめる。						⑱

- 25 -

発達段階	領域番号	項目	できない 時々できる おおよそ できる	記述欄	手引	国語	算数	キーワードとの関連
V ①言葉の模倣 ②発語								
V	42	支援者の声をまねてそのまま言う。(例：バーバー、アーア等)			63	知イ Aア		①
V	43	おもちゃなど身の回りの物を触りながら1人でムニャムニャ声を出す。						②
V	44	言葉を1～2語、正しくまねる。 (※以下、全ての項目で発語の明瞭さは問わない)						①
V	45	1つの言葉を言う。 (※言葉の意味を理解している状態)				知イ Aイ		②
V	46	支援者の顔を見ながら、意味はあるが構音として完成されない発声をする。						②
V	47	喃語の中に実際の単語を混在させる。(例：「あー ママー まむまむ」)						②
VI ③表出語彙の増加 ④名詞等の発語								
VI	48	支援者の話す単語をそのまま模倣して言う。			63	知ア Aア Aイ		①
VI	49	3つの言葉を言う。 (※言葉の意味は理解している状態)						④
VI	50	馴染みの事物やおもちゃ等を表す言葉(コップ、人形、椅子等)を複数使う。						④
VI	51	5語以上の言葉を使い分ける。						③
VI	52	動物を見て「いぬ」「ねこ」等と言う。						④
VI	53	日常的な状況において馴染みのある物や行為の名前を言う。						③
VI	54	支援者や他の子供が話すのを模倣して、同じようなイントネーションで話す。						③
VII ⑤言葉での要求 ⑥二語文等の表出								
VII	55	単語で要求する。			64			⑤
VII	56	「いやだ」等、簡単な気持ちを表す言葉を言う。						⑤
VII	57	言葉に合わせて身振りをしながら要求等を伝える。						⑤
VII	58	言葉のみで要求等を伝える。			64			⑤
VII	59	1つの単語(名詞)を異なった意図で用いる。 (例：「ねこ(がいる)」 「(あれが)ねこ？」等)						⑤

- 27 -

発達段階	領域番号	項目	できない 時々できる おおよそ できる	記述欄	手引	国語	算数	キーワードとの関連
Ⅰ ①触覚・固有覚・前庭感覚刺激への気付き								
I	1	暑かったり寒かったりしたときに、不快をしめす。	++++					①
I	2	顔や手に触れられたことに気付く。	++++		66			①
I	3	手に触れられたり、手で何かに触れたりすることに過敏性がない。	++++		66			①
I	4	腕を揺さぶられたことに気付く。	++++		67			①
I	5	抱きかかえやトランポリンでの揺れに気付く。	++++		67			①
I	6	何らかの味に反応する。	++++		68			①
I	7	何らかの匂いに反応する。	++++		68			①
Ⅱ ②感触の変化への気付き ③手・物への気付き								
Ⅱ	8	手を顔に近付ける。	++++		69			③
Ⅱ	9	顔や手に触れている支援者の手が離れたことに気付く。	++++					②
Ⅱ	10	手に触れている物の感触の変化に気付く。 (例：布を触っているところに、紙やすりを触らせると表情が変わる)	++++		69			②
Ⅱ	11	物を握らせると、5秒程度握り続ける。(把握反射)	++++		70		Aア	③
Ⅱ	12	自分の手の動きに興味・関心がある。(例：手を注視する、手を積極的に動かす等)	++++		70			③
Ⅱ	13	指や手を口に入れる。	++++		71			③
Ⅱ	14	手に何かが触れると、手や指を動かす。	++++		71		Aア	②
Ⅲ ④把持 ⑤単純な操作 ⑥リーチング ⑦単純な因果関係の理解								
Ⅲ	15	身体の前で両手を合わせる。	++++					③
Ⅲ	16	物を握らせると、握り続ける。(把握反射ではない)	++++		72			④
Ⅲ	17	手の平に物が触れると、握る。	++++		72			④
Ⅲ	18	物を口に当てたり入れたりして遊ぶ。	++++		73			⑤

発達段階	領域番号	項目	できない 時々できる おおよそ できる	記述欄	手引	国語	算数	キーワードとの関連
Ⅲ	19	物を握り、目と手で調べるように手元を見る。			74			⑤
Ⅲ	20	おもちゃを見せたり音を聴かせたりすると、手を動かす。						⑤
Ⅲ	21	物に手を伸ばし、触れる。			75		Aア	⑥
Ⅲ	22	触れると音が鳴るおもちゃで繰り返し遊ぶ。 (例：パーチャイム、鈴等)			75			⑤⑦
Ⅲ	23	音の鳴るスイッチを繰り返し押す。			75			⑤⑦
Ⅲ	24	遊びが途切れたとき等に、再度続けようとして行動する。(例：おもちゃが動かなくなったときに何度もスイッチを押す)			76			⑤⑦
Ⅲ	25	遊んでいたおもちゃが手元から離れたとき、おもちゃを探して手を動かす。			76		Aア	⑤
Ⅲ	26	手に触れた物を叩いたり振ったりする。			77			⑦
Ⅲ	27	顔にかけられたタオル等を取る。			77			⑤⑦
Ⅲ	28	簡単な日常生活を理解し、予想している様子をあらわす。						⑦
Ⅲ	29	自分から机や床を叩く行為を繰り返す。						⑤⑦
Ⅳ ⑧探索的操作 ⑨因果関係の理解(触覚) ⑩操作性の高まり								
Ⅳ	30	遊びが途切れたとき等に、困ったような様子を見せる。(例：スイッチで動くおもちゃが動かなくなったとき等)			78			⑧
Ⅳ	31	新奇な物に対して興味を示す。(例：新しいおもちゃを見ると、全体を見たり、触ったりする)					Aア	⑧
Ⅳ	32	親指を独立させて物を掴む。			78			⑧⑩
Ⅳ	33	おもちゃのハンマー・楽器のバチ・棒等で何かを叩く。						⑧
Ⅳ	34	長押しで操作するスイッチで遊ぶ。(例：振動、音楽等)			79			⑨
Ⅳ	35	意図的に水平方向の操作をする。(例：オートハープを鳴らす、ボールを手で払いのける等)						⑩
Ⅳ	36	ボールを転がす。						⑩
Ⅳ	37	両手で手を叩く。						⑩
Ⅳ	38	一方の手に持っている物を他方の手に持ち替える。						⑨⑩

- 30 -

発達段階	領域番号	項目	できない 時々できる おおよそ できる	記述欄	手引	国語	算数	キーワードとの関連
Ⅰ ①視覚刺激への気付き								
I	1	暗室での光への反応がある。(例：懐中電灯を点滅させる)			82			①
I	2	日向に行くと眩しそうにする。			82			①
I	3	目の前で蛍光のうちわを見せて反応がある。					Aア	①
I	4	目の前で手を振ったことに気付く。					Aア	①
I	5	30cm程度離れた距離で蛍光のうちわを見せて反応がある。			83		Aア	①
Ⅱ ②注視 ③追視								
II	6	光に視線を向ける。			83		Aア	②
II	7	光の変化に気付く。(例：部屋の明るさが変わると動きが止まる)			84		Aア	②
II	8	コントラストのはっきりした物(白・黒の縞等)に気付く。			84		Aア	②
II	9	30～40cm程度離れた人や物を(3秒程度)注視する。			85		Aア	②
II	10	急に手を近付けると瞬きをする。						①
II	11	ゆっくり動く人や物を正中線まで追視する。			85		Aア	③
II	12	1m以上離れた人を注視する。					Aア	②
II	13	ゆっくり動く人や物を正中線を越えて追視する。			85		Aア	③
Ⅲ ④物への気付き(視覚) ⑤リーチング								
III	14	眼球を動かすだけではなく、頭も動かして動く物を追視する。			86		Aア	③
III	15	移動をする際あたりをきょろきょろ見まわす。					Aア	④
III	16	顔の前に手を持ってきて手を見る。			86		Aア	④
III	17	担当の支援者の顔が分かる。 (※視覚情報のみ)			87		Aア	④
III	18	音がした方向に、顔を向けたり目を向けたりする。					Aア	④

発達段階	領域番号	項目	できない 時々できる おおよそ でできる	記述欄	手引	国語	算数	キーワードとの関連
Ⅲ	19	垂直方向への追視をする。					Aア	③
Ⅲ	20	物を握り，目と手で調べるように手元を見る。			87		Aア	④
Ⅲ	21	物と手を交互に見ながら，物に触れようとする。（触れなくても良い）					Aア	④
Ⅲ	22	おもちゃに視線を向けながらそれで遊ぶ。			88		Aア	⑤
Ⅲ	23	物に手を伸ばし，触れる。			88		Aア	⑤
Ⅲ	24	好きな遊びに使用する道具を見て期待をあらわす。						④
Ⅲ	25	2つの物を見比べる。			89		Aア Cア	④
Ⅲ	26	目の前にある物を視線から外すと目で探す。					Aア	④
Ⅲ	27	手の届く範囲の物を探索し，それに手を伸ばす。					Aア	⑤
Ⅲ	28	支援者の動作に興味を示し，物→人→物へ視線を移す。					Aア	④
Ⅳ ⑥興味の拡大（視覚） ⑦因果関係の理解（視覚） ⑧物の永続性 ⑨探索的行動								
Ⅳ	29	紐を引くと物が近づいてくることが分かる。					Dア	⑦
Ⅳ	30	1 cm以下のごく小さな物（ボタン等）を注視する。				B	Aア	⑥
Ⅳ	31	新奇な物に対して興味を示す。（例：新しいおもちゃを見ると，全体を見たり，触ったりする）					Aア	⑥
Ⅳ	32	押すと光るおもちゃで遊ぶ。（押す時に音や振動はない）						⑦
Ⅳ	33	視野内に落ちたおもちゃ等を注視する。					Aア	⑨
Ⅳ	34	一部分が隠された物を見つけ出す。			90		Aア	⑧
Ⅳ	35	支援者が積んでいる積み木に興味を示し，注視する。			90		Aア Bア	⑥
Ⅳ	36	ゆっくり転がるボールを見て掴む。					Aア	⑥
Ⅳ	37	落ちて視界から消えた物を探索する。			91		Aア	⑨
Ⅳ	38	目の前で全体が隠された物を探索する。			91		Aア	⑧

[illegible]

発達段階	領域番号	項目	できない 時々できる おおむね できる	記述欄	手引	国語	算数	キーワードとの関連
V ⑩空間認知の芽生え ⑪始点と終点の理解 ⑫手指の活用								
V	45	スイッチを押すと動くおもちゃで遊ぶ。（おもちゃとスイッチは20cm以上離れた場所にある）						⑦
V	46	自動販売機のボタン等を押したがる。						⑫
V	47	積み木を2つ横に並べる。（※掌程度の大きさの積み木）			95		Cア	⑩
V	48	積み木を2つ積む。（※掌程度の大きさの積み木）			95			⑩
V	49	箱の中の物を出す。（※30cmの立方体程度の箱）			96			⑫
V	50	（差し出された物や目の前に提示された物を）親指と人差し指でつまむ。					Aア	⑫
V	51	箱の中に物を入れる。（※30cmの立方体程度の箱）						⑫
V	52	玉をつまみカップに入れる。（※200ml程度のカップ）						⑫
V	53	玉をつまみカップから出す。（※200ml程度のカップ）						⑫
V	54	小さな物（ビー玉程度の大きさ）をつまみ、穴や隙間の中に差し入れる。					Bア	⑫
V	55	玉を棒から抜いて、缶に入れる。					Aイ	⑪
V	56	物を入れたり、はめたりする遊びをする。					Aイ	⑪
V	57	支援者が隠した物を見つける遊びをする。					Aア	⑧
V	58	なぐり描きをする。				知イ		⑦⑩
V	59	遠くに置かれたおもちゃを棒を使って引き寄せる。						⑩
VI ⑬視覚情報の活用								
VI	60	鉛筆でぐるぐる〇を書く。				知イ		⑬
VI	61	自分で動かしたことのあるおもちゃを見ると、電源の場所を探す。						⑬
VI	62	おもちゃ以外の環境の変化をもたらす機器（扇風機、テレビのリモコン等）を、ボタンで操作しようとする。						⑬
VI	63	積み木を3つ積む。（※掌程度の大きさの積み木）						⑬

[illegible]

発達段階	領域番号	項目	できない 時々できる おおむね できる	記述欄	手引	国語	算数	キーワードとの関連
V ①保存の概念 ②比較の概念								
V	45	コップの中からジュースがなくなったことがわかる。					Aア Bア	①
V	46	コップの飲み物が増えるのを注目する。					Aア Bア	①
V	47	大きい方のケーキを選ぶ。					Dア	②
V	48	見本を見ながら、人の顔のパズルを作る。					Aイ	②
VI ③図形概念の芽生え ④数・量概念の芽生え								
VI	49	はめ板で○を合わせようとする。			96		Cア	③
VI	50	円，四角形，三角形の型はめパズルをする。					Cア	③
VI	51	提示された見本の形と同じ形を選ぶ。（○△□のどれか）			97		Cア	③
VI	52	提示された色と同じ色を選ぶ。（三色程度）			97		Aイ	③
VI	53	見本と同じ形を選ぶ。			98		Aイ Cア	③
VI	54	「ぜんぶ」がわかる。			98			④
VI	55	「ひとつ」（1の概念）がわかる。			99		Bア	④
VI	56	「同じ」がわかる。			99		Cア	④
VI	57	複数ある○△□を分類する。					Cア	③
VI	58	大小の物をマッチングする。					Cア	④
VI	59	「大きい」・「小さい」がわかる。			100		Dア	④
VI	60	「多い」と「少ない」がわかる。			100 101		Dア	④
VI	61	「長い」・「短い」がわかる。					Dア	④
VII ⑤数・量概念の高まり ⑥カテゴリー概念の芽生え								
VII	62	自分のマークが分かり,選んで取る。					Bア	⑥

- 37 -

発達段階	領域番号	項目	できない 時々できる おおそ でできる	記述欄	手引	国語	算数	キーワードとの関連
V ①模倣 ②生活場面等の理解								
V	45	人形の目・鼻・口等を触って遊ぶ。					Cア	①
V	46	支援者の動作を模倣する。(例：手遊び、まねっこ遊び等)			104	Aア		①
V	47	日常生活場面を理解し、簡単な行動をとる。(例：コップを渡されたら飲もうとする等)						②
V	48	タオルやスプーン等身近な物の用途がわかる。			104			②
V	49	支援者の行っている日常的な動作を模倣する。(例：タオルをたたもうとする等)				Aア		①
V	50	挨拶のあとに食べる等、順番に合わせて行動する。						②
VI ③生活場面での記憶の活用 ④見立て・ごっこ遊びへの興味								
VI	51	おもちゃを入れた棚の中の物を覚えており、取り出そうとする。					Aア	③
VI	52	いつもある所に物がないうき、その部分を指さして知らせる。				Aウ	Aア	③
VI	53	生活の中で、目的を達成するために間接的に必要な物を手渡す。(例：外へ行きたいとき、帽子を手渡す)				Aウ		③
VI	54	ままごと道具をいっぱい並べて遊ぶ。			105		Cア	④
VI	55	おもちゃ等を使用してごっこ遊びのようにして遊ぶ。			105	Aウ	Cア	④
VII ⑤見立て・ごっこ遊び ⑥食事・排泄・衣服・清潔等ADLの基礎								
VII	56	見立て遊びをする。(例：物を自動車に見立てて押して歩く。)				Aウ		⑤
VII	57	電話ごっこをする。						⑤
VII	58	スプーンをひっくり返さないで、口の所へ持っていく。						⑥
VII	59	手が汚れたら、きれいにしたいがる。						⑥
VII	60	片手でコップを持ち、飲む。			106			⑥
VII	61	水に両手を入れ、顔をバシャバシャ洗う真似をする。						⑥
VII	62	便座に3分座る。						⑥

[illegible]

健康・身体の動き等

健康の保持

※当てはまる文章に○をつけて下さい。

学校生活の中での覚醒時間・覚醒の維持について。	三時間以上寝る	一～二時間寝る	数十分程度寝る	刺激がないと覚醒が落ちる	安定して覚醒できる
調子のよい日がどの程度あるか。	週に1～2日		週に3～4日		ほぼ毎日
呼吸状態について。	SpO ₂ 90以下の状態が続き、継続した学習が困難である		呼吸状態の悪化により、姿勢管理の必要がある		呼吸状態に関して問題ない
吸引について。	1時間1回以上の頻回吸引	1日6回以上の頻回吸引	吸引を必要とするときがある	吸引を必要としない	
吸入について。	1日3回以上の頻回吸入	吸入を必要とするときがある		吸入を必要としない	
栄養摂取について。	経鼻経管栄養のみ	経口は楽しみで経鼻・経管中心	1/2程度経口摂取	全量経口摂取	

表出手段(表情・発声等)

発達	項目	できない	時々できる	おおよそ できる	できる
I	働き掛けを受けて、快(緊張が緩む・表情が緩む・脈や呼吸が安定する等)になる。				
I	泣き、しゃっくり、咳、くしゃみ等に併せて発声する。				
II	泣かずに声を出す。				
II	人の顔や物を3秒程度注視する。				
III	喃語を言う。				
IV	「アムアム」等母音と子音を組み合わせることができる。				
V	日常的に唇を閉じる。				
VI	明瞭に発音する。				

表出手段(上肢の動き)

発達	項目	できない	時々できる	おおよそ できる	できる
I	手の中に支援者が指を入れると握る。				
I	指・手首を自分で動かす。				
II	物を握って5秒程度保持できる。				
II	握った物をはなせる。				
III	近くにある物を自分からつかむ。				
IV	両手に積み木を持つ。				
IV	物を持ち替える。				
V	左右の手で異なる動きをする。				

姿勢保持・移動能力

※「支援によってできる」「できる」に○が付いたら右の「保持できる時間・頻度」の欄を記入します。

発達	項目	できない	できる →	保持できる時間・頻度			備考 (支援内容等)
Ⅰ	安定した仰臥位をとる。	できない	支援によって できる	短時間 できる	10分以上 できる	20分以上 できる	
			できる	短時間 できる	5分以上 できる	10分以上 できる	
Ⅰ	腹臥位をとる。	できない	支援によって できる	短時間 できる	10分以上 できる	20分以上 できる	
			できる	短時間 できる	5分以上 できる	10分以上 できる	
Ⅰ	腹臥位で顔の向き を変える。	できない	できる	数回できた ことがある	時々 できる	普段から できる	
Ⅱ	顔の向く方向に上 半身をねじる。	できない	できる	数回できた ことがある	時々 できる	普段から できる	
Ⅱ	肘位をとる。	できない	支援によって できる	短時間 できる	10分以上 できる	20分以上 できる	
			できる	短時間 できる	5分以上 できる	10分以上 できる	
Ⅲ	仰臥位から側臥位 に姿勢変換する。	できない	できる	数回できた ことがある	時々 できる	普段から できる	
Ⅲ	肘位で頭を挙上す る。	できない	できる	数回できた ことがある	時々 できる	普段から できる	
Ⅲ	頭の立ち直り反応 がある。	できない	できる	数回できた ことがある	時々 できる	普段から できる	
Ⅲ	寝返りをする。	できない	できる	数回できた ことがある	時々 できる	普段から できる	
Ⅳ	座位をとる。	できない	できる	短時間 できる	10分以上 できる	20分以上 できる	
Ⅴ	四つ這いやずりば い等で移動する。	できない	できる	数回できた ことがある	時々 できる	普段から できる	
Ⅴ	立位を取る。	できない	支援によって できる	短時間 できる	10分以上 できる	20分以上 できる	
			できる	短時間 できる	5分以上 できる	10分以上 できる	
Ⅵ	数歩程度歩行で移 動する。	できない	できる	数回できた ことがある	時々 できる	普段から できる	

※「普段からできる」「10分以上できる(支援によってできる)」「20分以上できる(できる)」に○が付いた項目が活動時の姿勢に適していると考え。また、姿勢の指導においては、基本的には発達の順序に則して指導を行う。

課題整理シート

◆指導内容記入表

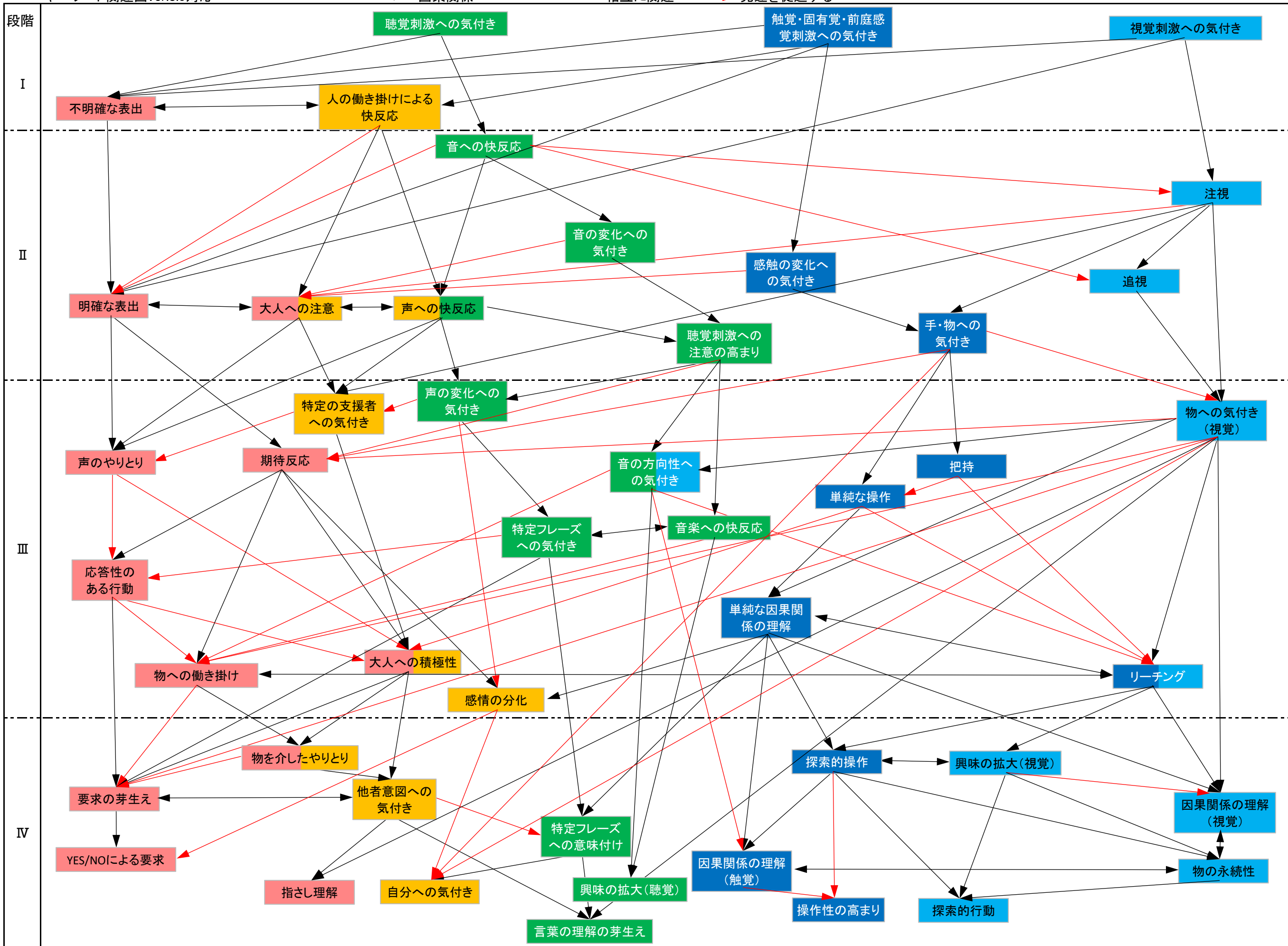
氏 名		学部学年	学部	年
記入者名		記入日	令和	年 月 日

分野	領域	発達段階	領域番号	課題とする項目	具体的な指導目標	支援・留意点
コミュニケーション	要求表出					
	人間関係					
認知	聴覚・言語					
	言語理解					
	言語表出					
	触覚等					
	視覚等					
	視覚・操作等					
	数量概念					
	A D L					

◆コミュニケーションに関するプロフィール表

月 齢	段 階	コミュニケーション		認知				
		要求表出	人間関係	聴覚・言語		触覚等	視覚等	
0 ヶ月	I	不明確な表出	人の働き掛けによる 快反応	聴覚刺激への気付き		触覚・固有覚・前庭感覚刺激 への気付き	視覚刺激への気付き	
2 ヶ月	II	明確な表出 大人への注意	声への快反応 大人への注意	音への快反応 音の変化への気付き 声への快反応 聴覚刺激への注意の高まり		感触の変化への気付き 手・物への気付き	注視 追視	
4 ヶ月	III	期待反応 声のやりとり 応答性のある行動 大人への積極性 物への働き掛け	特定の支援者への 気付き 大人への積極性 感情の分化	声の変化への気付き 音の方向性への気付き 特定フレーズへの気付き 音楽への快反応		把持 単純な操作 リーチング 単純な因果関係の理解	物への気付き(視覚) リーチング	
7 ヶ月	IV	要求の芽生え YES/NO による要求 指さし理解	物を介したやりとり 他者意図への気付き 自分への気付き	興味の拡大(聴覚) 特定フレーズへの意味付け 言葉の理解の芽生え		探索的操作 因果関係の理解(触覚) 操作性の高まり	興味の拡大(視覚) 物の永続性 探索的行動 因果関係の理解(視覚)	
						 	 	 
				言語理解	言語表出	視覚・操作等	数量・概念	ADL
10 ヶ月	V	大人の注意を引く 具体物を用いた要求 指さし要求	他者意図の理解 やりとりの拡大 共感性	名詞等の理解 言語指示への応答	言葉の模倣 発語	空間認知の芽生え 始点と終点の理解 手指の活用	保存の概念 比較の概念	模倣 生活場面等の理解
13 ヶ月	VI	要求の具体化・明確化 言語を伴う要求	社会性の芽生え 共感性の高まり	二語文の理解 質問への応答 動詞・形容詞等の理解	表出語彙の増加 名詞等の発語	視覚情報の活用	図形概念の芽生え 数・量概念の芽生え	生活場面での記憶 の活用 見立て・ごっこ遊び への興味
19 ヶ月 24	VII	自己主張の芽生え 二語文での要求	他の子供への興味 自己意識の芽生え 社会性的高まり	理解語彙の増加 カテゴリー概念の芽 生え	言葉での要求 二語文等の表出	道具の使用 空間認知の高まり	数・量概念の高まり カテゴリー概念の芽 生え	見立て・ごっこ遊び 食事・排泄・衣服・ 清潔等 ADL の基礎

※児童生徒の実態を表すキーワードに網掛けをし、課題を表すキーワードに下線を引いて使用する。



資料1 段階・領域ごとの発達の概要（Ⅰ～Ⅳ段階）

	全体像	要求表出	人間関係	聴覚・言語	触覚等	視覚等
Ⅰ	○働き掛けに気付いて反応(反射)を示す。 ○感覚への働き掛けは、前庭覚・固有覚・触覚→聴覚→視覚の順序で、受け取りやすさがある。 ○働き掛けに気付くことに時間がかかることがあり、働き掛けに対する反応は不安定である。また、働き掛けに対する気付きも、筋緊張の変化や目の動き等、支援者が読み取りにくい方法で示す場合が多い。 ＜発達の困難さ＞ 覚醒が低かったり、筋緊張や周囲の雑音、過敏さによる不快感等、支援者が働き掛ける刺激以外のことに注意を向けていたりするため、支援者の働き掛けに注意が向けにくい場合がある。	○働き掛けを受け、周りの人には伝わりにくい、不明確な表出をする。 ○働き掛けを受けなくとも、暑さや痛み等、不快さに注意を向けて何らかの表出をしていることもある。	○抱きかかえられたり、支援者から触れられたりすることに生理的な快反応を表出する。 ○働き掛けしている支援者には注意を向けていない。	○音に対して、Moro反射や瞬目反射が出る。	○何かが触れたこと(触覚刺激)や、自身の身体の動き(固有覚刺激)、揺れ(前庭感覚刺激)等に気付き、反応(反射)を示す。	○光や目の前を遮られる等の明暗に気付き、反応(反射)を示す。
Ⅱ	○注意を向けることのできる働き掛けや、働き掛けに注意を向け続ける時間が増えることで、働き掛けが止まったこと(無くなったこと)や、変化したことに気付くことができる。 ○他の刺激に注意を向けているときでも、強く記憶に残っている刺激へ選択的に注意を向けることができる。 ○働き掛けに対する反応が明確になるとともに、働き掛けを快として受け取ることが増える。また、誰が見ても、表出から快不快を読み取れるようになる。 ○自分で自分の身体を動かし、自己刺激を楽しむ様子も見られる。 ＜発達の困難さ＞ 運動機能障害→手や物の存在への気付きが難しい。	○働き掛けを受け、周りの人に伝わりやすい、明確な表出をする。 ○支援者に働き掛けられることを通して、働き掛けだけでなく、働き掛けをする支援者の存在にも注意を向けられるようになる。	○特定の支援者から抱きかかえや声掛け等の働き掛けを受け、それらに注意を向けることを通して、そばにいる支援者の存在に気付いていく。	○自分の周囲で聞こえる音に対して、注意を向ける力が高まる。 ○音に注意を向ける力が発達することによって、鳴っていた音が止まったことや、音が変化したことにも気付いていく。	○触覚・固有覚・前庭感覚刺激に注意を向ける力が高まることで、刺激がなくなったことや変わったこと等に気付く。 ○繰り返し自分の体や物に触れることを通して、自分の手や物の存在にも気付いていく。	○発光物や動く物でなくても、目の前で提示された物を注視したり追視したりする。

III	○人との快の関わりを繰り返す中で、快体験が記憶に残り、快を求める力が生まれることで、人に対する愛着や、快となる活動に対する予期・期待ができる。 ○固有覚・前庭感覚・触覚と視覚、視覚と聴覚等、複数の感覚を同時に活用することができるようになる(例:物を見ながら物に向かって手を伸ばす、音のする方に顔を向ける等)。このことで、人や物への気付きがより明確なものとなり、人や物に対して、意図を持った主体的な働き掛けができるようになる。 ＜発達の困難さ＞ 記憶に残りにくい→期待反応の表出や因果関係の理解に結び付きにくい。 運動機能障害→視覚の活用、リーチングが難しい。 運動機能障害、視覚障害→物との二項関係が成立しにくい。	○決まった合図の後、好きな活動を繰り返し行うことで、人との二項関係の中での期待反応が形成される。 ○人との関わりや、声のやりとり等を通して、支援者の働き掛けに対して応答性のある行動も出てくる。	○いつも関わる特定の支援者に気付き、笑顔や発声等で愛着を示したり、積極的に関わろうとしたりする。 ○感情が分化し、様々な事象に対して多様な表情で表出する。	○音に対して注意を向ける力がより高まることで、声の変化や音の方向性にも気付く。 ○場面等言葉以外の情報もある環境の中で、特定フレーズに気付いていく。	○物を把持したり、簡単に操作したり、単純な因果関係を理解する。 ○視覚を活用しながら、上肢の動きを調節し、リーチングも見られるようになる。	○物の存在に気付き、自分の身体(主には手)と物の距離を目で確かめながら、物に働き掛ける。 ○始めは物と手に交互に視線を移して物に手を伸ばすが、徐々に目で物を確認した後、そのまま手を伸ばすことができるようになる。
IV	○寝返りやずり這い等の移動能力や、座位姿勢等の姿勢保持能力の高まりによって、見る範囲が広がり、それに伴って興味・関心が拡大する。そのことで、快を求めて探索したり、要求したりするようになる。 ○支援者と物で遊ぶことを通して、他者の意図に気付いたり、物の名前と見た目を一致させ、言葉の理解が育まれたりする。 ＜発達の困難さ＞ 物との二項関係が自己刺激となっている。 →三項関係が成立しにくい。 これまで受容的だった→要求行動が出にくい。 記憶に残りにくい→言葉の理解につながりにくい。 運動機能障害→視覚の活用、探索、物の永続性の理解難しい。 移動が困難であると、興味関心が拡大しにくい。 視覚障害→他者意図への気付き、言葉の理解、人との物を介した遊びや要求につながりにくい。 聴覚障害→言葉の理解につながりにくい。	○遊びや物を複数提示されたとき、したい遊びや欲しい物を選択して要求することができるようになる(要求の芽生え、YES/NOによる要求)。 ○要求を伝えるために、支援者の注意を自分に向けさせる行動も現れる。 ○視野内の指差し理解ができるようになる。	○人と物を介したやりとりをする中で、支援者が関心を向けている物に注意を向ける等、他者意図にも気付いていく。 ○遊びの中で、自分の姿や名前等、自分自身にも気付いていく。	○特定フレーズの意味付けをする。 ○具体物又はジェスチャーと言葉を結び付けることで、言葉の理解につながる。 ○意味付けした特定フレーズを長期記憶として保持し、様々な音がある中から選択的に特定フレーズに注意を向けることで、言葉の理解につながる。 ○音に対する興味が拡大し、身の回りの様々な音(小さな音等)に注意が向けられるようになる。	○探索的操作や物で遊ぶことを繰り返す中で、因果関係を理解する。 ○同時に、手の操作性も高まってくる。	○見ることに對する興味が拡大し、身の回りの様々な物(小さな物等)に注意を向け、探索的行動ができるようになる。 ○物の永続性にも気付き始める。 ○視覚情報を使って物で遊ぶことを繰り返し、因果関係を理解する。

資料2 キーワードの定義（Ⅰ～Ⅳ段階）

	コミュニケーション		認知		
	要求表出	人間関係	聴覚・言語	触覚等	視覚等
Ⅰ	不明確な表出 不快な状態であることや、働き掛け（前庭感覚刺激や固有覚刺激、聴覚刺激等）を受け取ったことをいつも関わる大人が読み取れるように表出すること。 働き掛けを受けて表出するまでに時間がかかることがある。	人の働き掛けによる快反応 子供が快と受け取れる、人からの働き掛け（抱きかかえや揺れ等）があること。 働き掛けしている人には注意を向けていない。	聴覚刺激への気付き 大きな音（90dB 程度）に気付き、反応（反射）を示すこと。	触覚・固有覚・前庭感覚刺激への気付き 何かが触れたことや、自身の体の動き、揺れ等に気付き、反応（反射）を示すこと。	視覚刺激への気付き 光や目の前を遮られる等の明暗に気付き、反応（反射）を示すこと。
表出の例：瞬きが増える/減る、目を見開く、目が動く、身体の緊張具合が変化する、（笑顔が出る）、脈や呼吸が安定する等					
Ⅱ	明確な表出 働き掛け（前庭感覚刺激や固有覚刺激、聴覚刺激等）に対して、表情や発声等の反応をすぐに、誰が見ても分かるように快を表すこと。 大人への注意 働き掛けを受けて、そばにいる支援者の存在に気付き、注意を向けること。	声への快反応 楽器や物音よりも、人の声に反応しやすい。声を掛ける人には注意を向けていない。 大人への注意 左と同様。	音への快反応 自分の周囲で、普通の会話程度の大きさの音が鳴っていることに気付き、快を表すこと。 音の変化への気付き 高低や響き等、明らかに異なる音と音との違いに気付き、反応を示すこと。 声への快反応 左と同様。 聴覚刺激への注意の高まり 自分の身体に注意が向いているときでも、働き掛けられた聴覚刺激に注意を向けたり、十秒以上聴覚刺激に注意を向けたりすること。	感触の変化への気付き 手に触れている物の触り心地等が変わったことに気付くこと。 手・物への気付き 自分の手を注視したり、何かに触れたときに手や指をよく動かしたりする等、自分の手に注意を向けること。	注視 人や物に注意を向け、じっと見ること。1m程度離れた遠い物よりも近い物に対しては長く注視することができる。 追視 ゆっくり動く人や物を、正中線を越えて目で追うこと。

III	期待反応 刺激や働き掛けを受けた後に、次の活動を予期、期待していることを表情や身体の動きで表すこと。 声のやりとり 支援者の声掛け、言葉掛けに対して、呼応するように声を出すこと。 応答性のある行動 支援者からの特定の働き掛けに、意図を持って答えるように目線を動かす、発声をする等の行動をすること。 大人への積極性 意図を持って、特定の支援者を目で追う、手を伸ばす、笑顔を向ける、発声する等、自分から大人に積極的に関わろうとすること。 物への働き掛け 欲しい物に触れたり手を伸ばしたりする等、意図を持って物に働き掛けること。	特定の支援者への気付き いつも関わりのある特定の支援者の顔を見たり声を聞いたりすると、他の支援者とは異なる様子を示すこと。 例：注視時間が伸びる、関わっている間に動きが活発になる等。 大人への積極性 特定の支援者を目で追う、手を伸ばす、笑顔を向ける、発声する等、自分から大人に積極的に関わろうとすること。 感情の分化 喜び、怒り、不安、恐れ、悲しみ、驚き等、様々な感情を抱き、相手を意識した中で表情や身体の動き等で表すようになり、周りからの働き掛けによって感情を切り替えること。	声の変化への気付き リズムや抑揚、声色の変化に気付き、反応を示すこと。 音の方向性への気付き 人の声や音が聞こえてくる方向や音源に目線や顔を向けること。 特定フレーズへの気付き 繰り返し聞いたことのあるフレーズを記憶し、そのフレーズに対して好反応を示すこと。 音楽への快反応 メロディのある歌や音楽を聞いて、笑顔や発声等の反応があること。	把持 意図的に、物を握り続けること。これまでは、把握反射で握っている場合もある。 単純な操作 渡された物を振ったり口に持っていたりする、手に触れた物を叩く、触れ続ける等の操作。 リーチング 物に対して手を伸ばし、触れること。 単純な因果関係の理解 物に対する自らの働きかけ(原因)と、それに伴う変化(結果)のつながりを理解すること。 例：音の鳴るスイッチを繰り返し押す。	物への気付き(視覚) 自分の周囲の物に気付き、(自分から)目を向けること。 リーチング 物と手に交互に視線を移して物に手を伸ばすこと。
-----	---	---	---	---	---

IV	要求の芽生え 働き掛けや物を提示されたときに、好みの物に対してのみ、発声をしたり手を伸ばしたりすること。 YES/NO による要求 働き掛けや物を提示されたときに、好みの物に対しては発声や手伸ばしの行動をするが、好みでない物に対しても顔を背けたり手で払いのけたりする等の行動をすること。 指さし理解 支援者の指先が指し示す先に対象物があることを理解し、視線を対象物に向けること。	物を介したやりとり 物を介しながら、自分の意図を伝えるように、支援者を見たり発声したりすること。 例：玩具を使って1人で遊んでいるときに、うまくいかなくなると支援者を見る。 他者意図への気付き 支援者が関心に向けている物に対して注意を向けたり、支援者の注意を自分に向けさせるように行動したりすること。 自分への気付き 鏡に映った自分を見て表情を変える、身体を動かす等の行動をする等自分のことに気付き始めていること。	興味の拡大(聴覚) 小さな音や遠くから聞こえる音に注意を向ける、音の変化に気付く等、音に対する興味が拡大し、身の回りの様々な音に対して注意が向けられるようになっていること。 特定フレーズへの意味付け フレーズの意味を理解すること。ここでのフレーズは、特定の人が、特定の言葉を同じリズム、抑揚、声色で言葉掛けした言葉を指す。 例：A先生(特定の人)が「ご・は・ん」と言葉掛けると口を開けるが、B先生が「ごはん」と言葉掛けても口を開けない。 言葉の理解の芽生え 具体物又はジェスチャーと言葉を結び付け、その意味を理解すること。 例：目の前でお茶を提示して、「お茶」と言葉掛けすると口を開く。 また、特定の言葉を誰が、どんなリズム、抑揚、声色で言葉掛けをしたとしても、同じ言葉として意味を理解すること。 例：誰がどのように「ごはん」と言葉掛けしても、口を開けることができる。	探索的操作 物をさぐり調べるように、見たり触ったりすること。 因果関係の理解(触覚) 物に対する自らの働きかけ(原因)と、それに伴う変化(結果)の距離が離れている等、複雑な因果のつながりを理解すること。 例：紐を引っ張ると動く玩具で遊ぶ。 操作性の高まり 両手に物を持って打ち合わせる、物で物を叩く、物を握って離す等の操作ができるようになってくること。	興味の拡大(視覚) 小さな物に注意を向ける力、立体的に物を見る力等の視認知・視機能の高まりによって、身の回りの様々な物に対して注意が向けられるようになっていること。 物の永続性 視界から消えても、物が存在し続けていると分かること。 探索的行動 物をさぐり調べるように、移動したり見たり触ったりすること。 因果関係の理解(視覚) 物に対する自らの働き掛け(原因)と、それに伴う変化(結果)のつながりを視覚情報で理解すること。 例：押すと光る玩具で遊ぶ。(押す時に音や振動はない)
----	---	---	--	--	--

重度・重複障害児の アセスメントチェックリスト

—認知・コミュニケーションを中心に—

平成 24 年 3 月 ver.1.0 発行

令和 4 年 3 月 ver.9.0 発行

〒720-0841

広島県福山市津之郷町津之郷 280-3

Tel 084-951-1513

Fax 084-951-3864

Mail fukuyama-sh@hiroshima-c.ed.jp

広島県立福山特別支援学校

教育研究部 編



<http://www.fukuyama-sh.hiroshima-c.ed.jp/>